西南女学院大学・西南女学院大学短期大学部

地域活動論叢

2019 年度

大学公式キャラクター
かなめ
要 ちゃん

とどけ！ぬくもり
要（かなめ）から

目　次

巻頭言　地域連携室室長　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

「花園に、山姥？３」　地域連携室アドバイザー　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

西南女学院大学と西南女学院大学短期大学部の地域貢献活動の概要　・・・・・・・・・・・・7

《子ども・子育て支援と学校教育》

１．生き生きチャレンジキッズ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8

２．一緒にあそぼう　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１

３．いぼりの森の《みんな、だぁ～い好き!!》“みんな♪フレアイ隊”　・・・・・・・・・１４

４．だいすきにっぽん　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１７

《食と健康》

５．SAT システムを使った食事診断法　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２０

６.『食と健康』に関する地域密着型食育活動の展開　・・・・・・・・・・・・・・・・・２３

７．地域住民の運動と栄養に関する栄養相談や食事指導の支援活動　・・・・・・・・・・２６

８．尿漏れを予防しよう　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２９

《観光と地域活性化》

９．北九州市クルーズおもてなしイベント　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３２

１０．小さな森の音楽会　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３５

１１．とばた菖蒲まつり　高校・大学 PR ブースの出展　・・・・・・・・・・・・・・・３８

１２.「手づくり市場 in　北九州 2019」でのブースの出展　・・・・・・・・・・・・・・３９

協働のひろば

１．2019 年度ベストサポーター感謝状　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４３

２．地域連携室構成員からの寄稿

北九州市立井堀市民センター 館長 植村茂信氏　・・・・・・・・・・・・・・・・・４５

平和通り法律事務所 所長弁護士 小鉢由美氏　・・・・・・・・・・・・・・・・・・４６

2019 年度地域連携室の取り組み

１．2019 年度後期市民カレッジ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４９

２．子ども子育てワーキンググループ「公開講座『子育てとメディア』」　・・・・・・・・５２

３．女性活躍ワーキンググループ

（１）「オレンジゴスペル・讃美歌コーラスイベント」　・・・・・・・・・・・・・・・５４

（２）クリスマス礼拝における取り組み　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５８

４．フードドライブキャンペーン　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５８

５．広報活動（ＨＰ、地域連携室ブログ）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５９

６．その他の地域貢献活動の紹介

（１）子ども食堂の取り組み　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５９

（２）一つ屋根プロジェクトの取り組み　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６０

創立 100 周年プレイベントについて　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６１

新聞記事に見る　地域連携室２０１９年度の歩み　～地域連携室の足跡～　・・・・・・・６２

巻　頭　言

地域連携室　室長　今村　浩司
（大学　保健福祉学部　福祉学科　教授）

今年度も、この「地域活動論叢 2019」を、関係の皆さまのお手元にお届けすることができました。これもひとえに関係の皆さまのご理解とご協力があってこそと、心より感謝申し上げます。

さて、本学はキリスト教に基づく女子大学として、女性が活躍する社会の形成を目指し、そしてそれに対して自覚的に取り組める人材育成に取り組んでいるところです。そのため教育課程と学生支援の充実にとどまらず、地域住民の皆さまの健康と福祉、子育て支援、産業と地域の活性化等につながる多くの地域貢献活動を実践しています。当然ながら、これらの活動は、学生たちにとって貴重な学びの場にもなっています。

本学では、2016 年 8 月に、学長直属の部局横断的組織である地域連携室を設置し、「地域に根差し、地域とともに歩む大学、短期大学づくり」に向けて、地域貢献活動の環境整備等を進め、約 3 年半が経過しました。今では様々な活動が展開されており、本論叢には、2019 年度の本学におけます地域貢献活動や公開講座、そして地域連携室の取り組みをまとめております。通算第 3 号であり、関係の皆さまに是非ご覧頂き、率直なご意見を頂戴できますれば幸甚に存じます。

また、「地域活動論叢 2018」に、谷川前副学長兼室長が「巻頭言　小さくても、美しく個性的な花咲く文化的な土壌の生成に向けて」のなかで、地域連携室の役割を 3 点まとめられています。

①　地域の皆さまに、私たち学生・教職員は何をしている（しようとしている）か、コンタクトをとるにはどこに連絡したら良いかを知っていただくこと

②　本学の学生・教職員に、本学が地域の皆さまにどのように見えているか、地域の皆さまに何を求められているかを伝え、つながる機会を提供すること

③　学生・教職員と地域の皆さまの協働が広がり、深まっていく環境を提供すること

この 3 点の役割をしっかりと再認識して、引き続き更なる活動の発展を目指して参りたいと思っております。

ご承知のように、今年はオリンピック・パラリンピックが開催される歴史的な年でもあります。そして、いよいよ 2022 年には、学校法人西南女学院は創立 100 周年を迎えます。昨年開催されました、ラグビーワールドカップでの日本チームに関する「ONE TEAM（ワンチーム）」が、流行語大賞に選ばれました。「一体感のある組織・活動を目指そう」という「選手」も「大会関係者」も「国民」も目標とするスローガンを掲げたものであり、本学に置換すると、選手（学生・教職員）、大会関係者（大学・地域連携室）、国民（地域の皆さま）であり、これに倣って地域貢献活動も、今以上に一体感を醸成させながら邁進できればと思っております。

結びに、今後も私たちは、「小さくても、美しく個性的な花咲く文化的な土壌の生成にむけて」、質の高い地域連携活動を企画し取り組んで参りたいと思います。関係の皆さまの更なるご理解とご協力を、心よりお願い申し上げます。

「花園に、山姥？３」

地域連携室アドバイザー　石丸 美奈子

西南は、歌う。

★

たとえば。

イシマルがこの３年すっかりハマってる、チャペル（礼拝）。

毎週木曜（短大は水曜）の、１０時５０分から、マロリーホールにて。

始めと終わりに、その月の課題讃美歌と、当日奨励くださる講師が選ぶ讃美歌。

必ず二曲歌う。

超美声の指導教員＆ご機嫌なピアノ（オルガン）奏者に導かれ。

全学科の一年生とともに。

老眼鏡ずりあげ、音はずしつつ。楽しい！！

讃美歌は、童謡にも似て。

音階や詞は易しく、初見でも何とかついていける。

歌ってるうちに、祈っているのだと気付く。

そうして、すっかり、ココロ穏やかに満たされる、という次第。スバラシイ。

ちなみに、お気に入りの楽曲は「ちいさなかごに」であります。

あ。

誘われて、中高のチャペルにもお邪魔しました。

伝説のロウ講堂。

日差しキラキラ、清らかな歌声たち。天使！？

★

たとえば。

昨年夏の関門海峡花火大会。

門司港の夜空に、花火とともに、西南女学院の校歌。

２０２２年に迎える創立１００周年プレイベントとして。

事務方が企画、有志から募金集め見事実現させた。

関連で、小倉北区都心部の野外スクリーンにて、映像＆校歌が繰り返し流れ。

遭遇し、感涙した向きも多かったのでは？

♪　ああ　わが西南　ああわが西南　かくるることなき　山の上の城　♪

★

たとえば。

讃美歌コーラス。教育支援職員が中心となり。

こちらも１００周年プレイベント、オレンジゴスペルワークショップ、の前座という立ち位置だったけど。

どーしてどーして。個人的には、メインでした。

かつて開催してたクラス讃美歌コンクールを復活させたい。

声掛けを繰り返し、練習時間をやりくりし。

教職員、大学・短大生、ＯＧ、西南中学生、４グループが参加。

愛嬌、恥じらい、ド迫力（えー、ゴージャスという意味です）、ブラボー！

来年度も継続決定。

★

井堀の森の小さな音楽会。

北九州交響楽団と保育科学生のコラボ。

井堀市民センター多目的ホールにて。

「ピーターと狼」「ごんぎつね」「さんぽ」「いつも何度でも」「タイプライター」「踊る猫」。

地域の乳幼児からお年寄りまで。会場は押し合いへし合い。

指揮者以下２７名の楽団員は、全員、メッチャ嬉しそう。子どもたちのリクエストに、相好を崩し。

保護者やセンタースタッフの皆さんも、目輝かせ。

音楽療育、というのだそーです。

学生たち、歌い弾き描き語り大活躍。

熱血指導教員のノリノリ動物コスプレにも一票。

★

西南構内の、音楽館。

１Ｆに１７室、３Ｆに１９室。防音の練習部屋。２Ｆには、巨大スピーカー付きの小ホール。

全館で５０台余りのピアノが備えられている。

環境は、バッチリ、なのだ。

歌だけではなく、ピアノ、バイオリン、ハンドベル・・・。

本学は、音に溢れてる。

サックスの練習してもいいかな？とは、５０代地域連携室長。

★

歌には力がある。

震災の後、花が咲く、を泣きながら何度も歌ったよね。

２０１９も、自然災害が多発。

パプリカ、を全国各地、子どもたちと踊った。

ラグビーワールドカップ。国歌をハカをビクトリーロードを。

ワンチーム！

★

西南は、歌う。

看護福祉栄養保育英語観光。科目は違えど。

この学び舎で覚えた讃美歌が奏でた曲がたっぷり浴びた音楽が。

キミたちが生きていくうえで支えになるんだ。

きっときっとずっと。

★

毎年１２月には、クリスマス礼拝。

讃美歌・スピーチ・キリスト降誕劇（ミュージカル仕立て）・講演・バザーなどなど。

ソレイユホールにて。

圧巻です。まさに北九の宝塚！

２０２０は、中高・大学短大合同で開催予定とのこと。お楽しみに。

てなことを、つらつら考えつつ。

今日も、ふうふう、花園（山の上の城）を目指す。

「♪　山姥が、来たぞ～♪」

【石丸氏のプロフィール】

コピーライター
西日本工業大学評議員
北九州マラソン実行委員
コピーライターとしてのデビュー作は、マルショク・サンリブ「生活は生もの。」。
八幡東区「響ホール」の名付け親でもある。
これまでにユニクロ、新日鉄、花キューピッド等の広告制作及び、北九州市（周年事業）福間町（現・福津市総合計画）等自治体の広報を担当。
また、１９８７年北九州ミズ２１委員就任をきっかけに３０年にわたり、ＮＨＫ九州沖縄地方番組審議委員、福岡県行政改革審議委員他、観光振興・教育文化芸術振興・街づくり等の各委員会委員を歴任。
この１５年ほどは、外部アドバイザーとして、北九州モノレール社外取締役、井筒屋アドバイザー、西日本新聞北九州本社アドバイザー、北九州市立大学広報アドバイザーに就任。
プライベートでは、毎年夏と冬に超異業種交流会（イシマル組）を主催。
著書に「夕刊を読む女。」がある。

西南女学院大学と西南女学院大学短期大学部の地域貢献活動（概要）

本学では感恩奉仕の建学の精神にもとづき、女性らしい豊かな人間力と専門的な実践力で社会に貢献する人材育成を目指しています。座学に加え、学生たちが自ら学外に出向き、さまざまな課題に向き合い、できることをみつけていくことを大切にして参りました。これまでの学生参加の地域貢献活動を活動形態別にみますと次の６つに分けることができます。

① 市民公開講座：最新の知識・技術、生活の知恵などを提供する講義や演習
② 体験・アクティビティ：あそぶ、たべる、学ぶ、語り合うなどの体験型の企画
③ ピアサポートグループ活動：介護や子育ての悩みなどを参加者同士で受けとめ支え合うグループ活動
④ 提案とアクション：若い女性の視点を取り入れた商品開発や地域活性化への提案とアクション
⑤ 海外における貢献活動：アジア地域での地域貢献活動
⑥ そのほか

また、課題別にみると６つに分けることができます。

① 健康・食・運動　② 福祉・介護　③ 子ども・子育て　④ 学校教育
⑤ 産業・観光　⑥ 地域づくり

2019 年の地域貢献活動は 12 件でした。『地域活動論叢 2019』では、課題別に＜子ども・子育て支援と学校教育＞及び＜食と健康＞＜観光と地域活性化＞に分類し（下表参照）、それぞれの１年間の成果と課題をまとめました。本書は、この１年間の学生たちと教職員が地域の皆様とともに歩んだ道のりをコンパクトにまとめたものであります。これらが地域の皆様と私たちにとって共通の宝物となりますことを祈念しております。

表　2019 年度に本学で実施された地域貢献活動

＜子ども・子育て支援と学校教育＞
- 生き生きチャレンジキッズ　［地域の小学生］
- 一緒にあそぼう　［障がいのある子どもとそのきょうだい］
- いぼりの森の《みんな、だぁ～い好き！！》“みんな♪フレアイ隊”［地域の未就学児］
- だいすきにっぽん　［地域の小学生］

＜食と健康＞
- SAT システムを使った食事診断会　［一般市民と学生（ESD センター利用者）］
- 『食と健康』に関する地域密着型食育活動の展開　［地域住民］
- 地域住民の運動と栄養に関する栄養相談や食事指導の支援活動　［浅生スポーツセンター利用者］
- 尿漏れを予防しよう　［女性の地域住民］

＜観光と地域活性化＞
- 北九州市クルーズおもてなしイベント　［外国人観光客］
- 小さな森の音楽会　［地域住民］
- 「手づくり市場 in 北九州 2019」でのブースの出展　［一般市民］
- とばた菖蒲まつり　高校・大学ＰＲブースの出展　［一般市民］

注）［　］内は協働のパートナーあるいは支援の対象です。『地域活動論叢 2019』作成の段階で実施予定のものを含んでいます。

１．企画名：生き生きチャレンジキッズ

２．主催者：井堀市民センター（北九州市小倉北区井堀３－１５－２）

３．本学代表者：五十嵐　勝

４．参加者：市民センター　小学生 26 名・保護者 6 名・センター職員 4 名

本学　福祉学科学生　宮崎まい(3 年)、村山 継(3 年)、多田ひかり(1 年)、溝口菜都(1 年)

稲木光晴 教授、山本佳代子 助教、五十嵐勝、小川尚、三浦千賀、大谷芳子

５．概要

（１）目的

西南女学院大学・西南女学院大学短期大学部（以下、「本学」）は、井堀市民センターから、「生き生きチャレンジキッズ－学校ではできない様々な経験を地域との絆や知識から学んでもらう－」というテーマに沿った企画・運営の依頼を受け、小学生自らが体験できるプログラムを、本学を会場に行うこととなり、今年は 5 回目の開催である。今年は、「視覚障害体験～スポーツ編～」というテーマを掲げ、子ども達に「視覚障害者のスポーツを知ること」「視覚障害者へのサポート方法を知ること」を伝えることを大きな目的とした。

（２）実施日時・場所・プログラム

開催日：2019 年 12 月 21 日(土)10 時から 12 時

開催場所：西南女学院大学第 1 体育館

プログラム：

時間	項目	内容
10:00-10:15	本日の目的や流れ説明	１．めあて「視覚障害者のスポーツを知ろう」 「視覚障害者へのサポート方法を知ろう」の共有 ２．アイマスク着用時の注意点の共有
	自己紹介	
10:15-10:45	体操	１．二人 1 組で、一人はアイマスクを着用し体操 目が見えない状態で体操すること、見えない人への伝え方などを体験する ２．見えない人同士でのじゃんけん等の工夫を知る
	歩行体験を半数ずつ入れ替え	階段昇降を体験する
		歩く・走るを体験する
10:45-10:55	休憩	
10:55-11:45 25×２	ボールを使って 2 種類を半数ずつ入れ替え	アイマスクを着用し、音が出るボールを使い、転がす・捕る・蹴る・あてる（ペットボトルボウリング)を体験する
		サウンドテーブルテニス（視覚障害者の卓球）を体験する
11:45-12:00	ふりかえりとパラリンピック動画紹介	
	アンケート	アンケート記入

6．評価

参加児童より（活動終了後アンケート）

①「今日の活動は楽しかったですか」　はい　25 名　　どちらともいえない　1 名

②「視覚障害者へのサポートの方法がわかりましたか」　よくわかった　18 名　わかった　8 名

③「他の障害のある人のスポーツをもっと知りたいと思いますか」

はい　23 名　　いいえ　1 名　　どちらともいえない　2 名

④「今日のような活動があればまた参加したいと思いますか」

はい　22 名　　いいえ　1 名　　どちらともいえない　3 名

⑤自由記述より

・しょうがいしゃの人はいろんなことがたいへんということをしりました。

・サウンドテーブルテニスをニュースでみたよりむずかしかったです。

・しかくしょうがい者のサポートがむずかしいことを知りました。

・はじめていろいろなサポートをしたのがたのしかったです。

・目が見えない人がいたらやくにたつことをたくさんしたいと思いました。

・今日活動して、はくじょうをもっている人がこまっていた時たすけたいなと思いました。

・目が見えない人の気持ちがとってもよく分かりました。目が見えない人が困っていたら、助けてあげたいと思いました。

参加学生より（終了後の感想）

・スポーツを通して視覚障害について考える良い体験ができた。小学生だけでなく、多くの人に障害をもつ人のことを知ってもらうこと、そして、そのためにこのような活動を広めていくことが大切だと思いました

・障害者スポーツを通して、自分自身も視覚障害者の生活のしづらさやサポート等、今まで意識してなかったところまで理解することができました。また、子どもたちと共に障害者スポーツを行うことで、子どもたちから見た考え方、捉え方の違いも感じることができ、自分が子どもたちに対して、より深い理解になるよう働きかけていくことの難しさも感じました。

・視覚障害者との関わり方について、私も小学生と共に学ぶとともに、それらを小学校低学年にも分かるように説明するにはどうしたらいいか、言葉づかいや目線の高さなどについても考えることができました。少しふざける子どもやゲームで闘志を燃やしすぎる子どもへの注意の仕方や、声のかけ方の難しさを知り、教員を目指すにあたり意識していく課題にしたいと思いました。

・障害者スポーツを体験して、スポーツは運動能力や年齢に関わらず楽しめるものだと感じました。少し工夫するだけで様々な楽しみ方があることがわかりました。また、アイマスクを着用して走った時、視覚が遮られているにも関わらず、全力で走っている子どもが多かったように感じました。子どもと関わる中で、見えないことへの恐怖感は人それぞれだと思いました。

7．決算

西南女学院大学地域貢献活動助成金による

8．謝辞

このような機会を提供していただいた井堀市民センターの皆様に感謝申し上げます。

活動の様子

1．企画名：一緒にあそぼう

2．団体名：ちゃれんじ

3．企画代表者　西南女学院大学保健福祉学部福祉学科　山本　佳代子

4．概要

（1）目的

障害のある子どもときょうだい、その家族を対象とし余暇活動支援を行う。さまざまなレクリエーション活動を通し、子どもたちが楽しく体を動かしながら多様な動きを身につけること、仲間と体験を共有し、一緒に遊ぶ楽しさを知ることを目的とする。またスタッフとして参加する学生は、子どもたちとの関わりを通し、障害についての理解を深めること、場面に応じた声かけや関わり方、プログラムの企画や実践の方法について学ぶことを目的とする。

①対象：障害のある子どもときょうだい、その家族

②内容：体育館でのレクリエーション活動・水泳活動・食育活動・野外活動
（デイキャンプや動物園など）

③活動場所：西南女学院大学第二体育館・障害者スポーツセンター（アレアス）・足立青少年の家
グリーンパーク

（2）実施日時・場所・参加者数・実施内容

別紙資料１

（3）インシデントの有無

なし

5．評価

（1）アウトカム評価

参加者：参加者からは、「いつも楽しい企画をありがとうございます」「親だけではできない体験をさせてもらっている」「お姉さんに遊んでもらえ、いつも楽しみにしている」などの感想をいただいた。野外活動は父親の参加も増えている。

学生　：一人ひとりが、各活動の企画から実践までをグループ毎に担当し、リーダーとしての役割を体験することで、自発的な動きがみられるようになった。

（2）プロセス評価

参加者：イベント終了後のアンケート実施、活動中に保護者と意見交換をすることで保護者の希望を把握した。

学生　：毎回の活動後、子どもの様子や自分自身の関わり方、気になった点などについて記録を作成し活動を振り返る。記録を全体で共有し次の活動につなげる。

（3）企画の妥当性と今後の課題

参加率や活動後のアンケートから、参加者の満足度は高いと考えられる。特に、野外活動や食育活動は、普段体験する機会が少ない、家族だけでの実施は難しい、父親も参加しやすいなどの要素もあり、「毎年実施してほしい」との声が聞かれる。一方、これらの活動は、スタッフの事前準備に多大な時間が割かれ、特にリーダーを担うスタッフの負担が大きい。スタッフ間での役割分担の比重が大きくならないようにしていきたい。また、土曜日の補講も多いため、予定していた開催日を再調整することも多

く、保護者の協力も得ながら実施している状況である。参加者の期待に応え、安全な活動が実施できるようスタッフの増員が課題である。

6．決算

西南女学院大学地域貢献活動助成金・子どもゆめ基金による

7．謝辞

活動に参加し、子ども達と学生が触れ合う時間を作ってくださる保護者の皆様に感謝致します。次に、子どもたちが楽しく活動できるよう、活動の企画、事前準備、当日の運営、次回に向けた振り返りに真摯に取り組み、共に活動を作り上げてくれた学生スタッフに感謝申し上げます。

また、デイキャンプでご指導いただきました、北九州市立大学の村江史年先生、食育活動に一緒に取り組んでいただいた栄養学科の山田志麻先生とそのゼミ生の皆様、グリーンパークの皆様に心より感謝申し上げます。

8．写真資料

写真１：足立青少年の家　デイキャンプ

写真２：足立青少年の家　デイキャンプ

写真３：グリーンパーク　じゃがいもの収穫

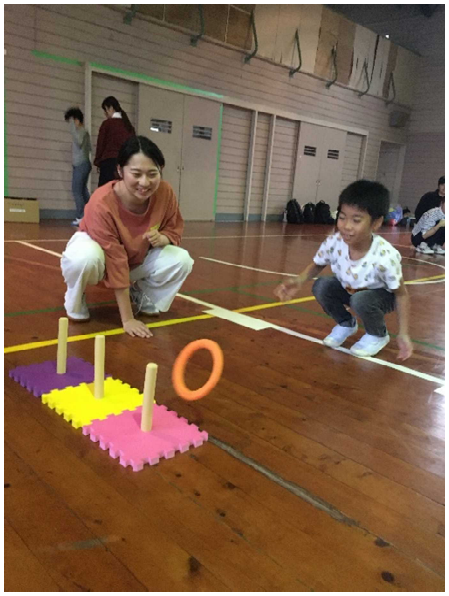


写真４：大学体育館　レクリエーション

別紙資料1

2019ちゃれんじ活動スケジュール

日程	時間	場所	内容	参加者	スタッフ
4月11日 （木）	10時40分から12時	6205教室	全体ミーティング		17名
5月16日 （木）	16時半～17時半	リズム室	レクリエーション	子ども 8名 保護者 6名	16名
6月20日 （木）	16時半～17時半	西南女学院大学第二体育館	レクリエーション	天候により中止	
7月11日 （木）	16時半予定	アレアス	水泳活動	子ども 2名 保護者 2名	2名
7月18日 （木）	16時半予定	アレアス	水泳活動	子ども 8名 保護者 5名	8名
8月29日 （木）	16時半予定	アレアス	水泳活動	子ども 6名 保護者 4名	5名
9月2日（月）	14時から16時	北九州市立大学	足立デイキャンプ リーダー会議		3名
9月5日（木）	16時半予定	アレアス	水泳活動	子ども 5名 保護者 4名	4名
9月10日 （火）	9時から15時	足立青少年の家	足立デイキャンプ スタッフトレーニング		12名
9月12日 （木）	16時半予定	アレアス	水泳活動	子ども 7名 保護者 5名	6名
10月4日 （金）	10時半から12時	福祉学科実習指導室	足立デイキャンプ リーダー会議		5名
10月10日 （木）	16時20分から18時	744教室	全体ミーティング		17名
10月17日 （木）	16時半～17時半	西南女学院大学第二体育館	レクリエーション	子ども 7名 保護者 5名	15名
10月27日 （日）	9時から15時	足立青少年の家	足立デイキャンプ	子ども 13名 保護者 13名	17名
11月24日 （日）	10時から12時	グリーンパーク	じゃがいも収穫	子ども 8名 保護者 8名	5名+ 栄養学科 山田ゼミ 5名
12月12日 （木）	16時半～17時半		クリスマス会	子ども 8名 保護者 7名	16名
3月予定		西南女学院大学調理室	じゃがいも調理		
3月予定			保護者会		

１．企画名　　いぼりの森≪みんな、だぁ～い好き！！≫

みんな♪フレアイ隊

２．主催者名　　井堀市民センター

３．企画代表者　西南女学院大学短期大学部保育科　　藤田稔子

４．概要

（１）活動の概要と目的

いぼりの森≪みんな、だぁ～い好き！！≫は、0・1・2 歳児を中心とした未就園児とその保護者を対象に、井堀市民センターで実施する子育て支援活動です。通常月に 2 回、北九州市の保健師・看護師の「子育て相談」＋子育てサポーターの「あそび支援」と、我々フレアイ隊が交互に開催しています。フレアイ隊は、保育科 2 年「こども学特別演習」の藤田ゼミの活動の一環として位置付け、今年で 4 年目となります。

フレアイ隊の活動は、学生が年間計画を立案し、自らの目的・目標を掲げて実施します。

今年度の学生達が掲げた目的・目標は、以下の通りです。

①市民センターを拠点にした“井堀のまち”の地域活性化を目指します
②幼稚園、保育園に通っていない子どもと保護者、学生の交流の場を作ります
③実習以外の場において、自分達で考え計画した活動を行い、子どもや保護者と触れあうことで保育実践力を高めます

（２）開催日、内容および参加人数（基本的には、第 4 木曜　9：20～10：00）

開催日	内容	参加者人数
4 月 25 日	『こいのぼり』　～製作あそび～	子ども　8 名 保護者　7 名
5 月 23 日	『カタツムリ』　～バネルシアター～	子ども　5 名 保護者　5 名
6 月 27 日	『七夕』　～劇あそび～	子ども　4 名 保護者　4 名
7 月 25 日	『潮干狩り』　～ゲームあそび～	子ども　16 名 保護者　9 名
9 月 26 日	『シャワ・シャワ・おふろ』　～新聞あそび～	子ども　7 名 保護者　7 名
11 月 28 日	『どんぐり』　～歌あそび～	子ども　10 名 保護者　10 名
12 月 26 日	『暮れの大そうじ』　～運動あそび～	子ども　7 名 保護者　7 名
1 月 23 日	『鬼たいじ』　～製作あそび・コーナーあそび～	子ども　12 名 保護者　10 名

＊今年度、新規参加者は、17 名でした。

＊取材：7/25　ミキハウス　情報誌の取材

1/23　FBS　あっぱれ北九州

＊今年度の藤田ゼミは、4 人の学生達が頑張りました。今までにない少人数でした。

（３）活動の特徴

①『定番』はしません

たとえば、節分の行事だから、“鬼のお面を作って鬼退治をする”といういわゆる『定番』ではなく、学生達が自由の発想で企画考案していくことを常に求めました。回を追うごとに、学生達からの思いもかけない発想で内容が充実しました。特に、節分の恵方巻き作りは、親子共に楽しく参加してくれました。

②時間をかけた準備

今年度も品質にこだわりました。また、7 月の会で使用した魚たち、大型船は、撮影スタッフやセンターの皆様から絶賛されました。この準備は、自分たちでスケジュール管理しながら、放課後の時間を用いて進めていました。

③安全性の保障

参加してくれる子ども達の大半が 0 歳児であるため、あそびの内容はもちろんのこと、特に安全面に関しては十分に配慮し、今年度も最終回まで事故等問題なく終了しました。子ども達が手にするものは特に気を配り、素材や大きさを吟味しています。活動中は、子育てサポーターさんやセンター職員の皆様の見守りを徹底していただき、今年度は少ない人数でしたので、周りのサポートに感謝する日々でした。

５．評価

学生が 4 人であったため、常に活動のことを話し合ったり、連絡を取り合って準備を分担したり、活動を進めていました。徐々に手際よく、順序よくできるようになっていました。子ども達の前でも、子ども達の様子を見ながら臨機応変に対応することができるようになりました。少人数だからこそ「できること」を最大限に考え、子育て支援として地域の親子に提供できたのではないだろうかと思っています。毎回短い時間でのかかわりですが、笑顔で帰っていく親子の姿を見るとき、学生達の達成感が高まっている様子でした。

６．活動経費

・活動に必要な材料の購入は、井堀市民センターの経費でさせていただきました。

・学生達の「フルーツダンス」のコスチュームや参加者達の名札等の材料費は、地域連携室活動補助金を活用させていただきました。

７．今後の課題

今年度は、本来のゼミの時間が午後になったため、強引に休講することで補講として活動日程を確保し実施できました。しかし、そのために 1 年ゼミの時間とブッキングすることがあり、1 年生には迷惑をおかけしました。来年度は、そのようにならない時間割になって欲しいと祈るばかりです。

８．御礼

井堀市民センターの館長様はじめ職員の皆様、子育てサポーターさんには、学生達をお支えくださり感謝いたしております。また、毎回楽しみに参加してくださる子ども達とお母様にも深くお礼申し上げます。

９．添付資料

広報用チラシ、実施時の様子、取材記事（写真資料）　　以上

☞開催案内チラシ

いぼりの森の「みんな！だぁ～いすき！」 ≪井堀市民センター≫

2019年度 みんな♪あそび隊 年間予定表

子育てサポーター、子育てボランティア担当

通年第1水曜日　10時～11時30分

	月	開催日	テーマ	内容
第1回	4月	4月3日（水）	「初めまして！！」	みんなであそび隊
第2回	5月	5月2日（水）	休み	
第3回	6月	6月5日（水）	「ウキウキ・リズム体操」	親子リズム体操
第4回	7月	7月3日（水）	「七夕づくり」	たんざく作り
第5回	8月	8月7日（水）	「夏休み　フリー」	フリースペース
第6回	9月	9月4日（水）	「こんなに大きくなりました」	手型・足型
第7回	10月	10月2月（水）	「あそび隊のオリンピック」	運動あそび
第8回	11月	11月6日（水）	「いほりっ子の音楽会」	いろんな楽器を使って
第9回	12月	12月4日（水）	「クリスマス会」	サンタと一緒に……
第10回	1月	1月1日（水）	休み	
第11回	2月	2月5日（水）	「冬のあそび」	雪だるま作ろう
第12回	3月	3月4日（水）	「お楽しみ会」	？

☆ 第1水曜日は、「子育て相談」も併せて実施しています。

2019年度 みんな♪フレアイ隊 年間予定表

西南女学院大学短期大学部　学生担当(藤田ゼミ)

前期第4木曜日　9時20分～10時

	月	開催日	テーマ	内容
第1回	4月	4月25日（木）	「こいのぼり」	製作あそび
第2回	5月	5月23日（木）	「カタツムリ」	パネルシアター
第3回	6月	6月27日（木）	「七夕」	劇あそび
第4回	7月	7月25日（木）	「潮干狩り」	ゲームあそび
第5回	8月	8月29日（木）	「シャワ・シャワ・おふろ」	新聞あそび
第6回	9月	9月26日（木）	休み	
第7回	10月	10月24日（木）	休み	
第8回	11月	11月28日（木）	「どんぐり」	歌あそび
第9回	12月	12月26日（木）	「暮れの大そうじ」	運動あそび
第10回	1月	1月23日（木）	「鬼たいじ」	製作あそび・コーナーあそび
第11回	2月	2月27日（木）	休み	
第12回	3月	3月26日（木）	休み	

☞手作りのプログラムは毎回作成

☞今年度は『フルーツ体操』衣装も帽子も自分達で縫いました

☞９月　仲良く混浴♨

１月は、お買い物して
恵方巻きを作ったよ。
鬼さんにもはいどうぞ。

１２月は、大掃除。
窓にクレヨンで
お絵かきし、
窓ふきしました。
床も掃いたよ。
大きな雑巾に乗って雑巾かけも。

今年の取材は、
・ミキハウス
・あっぱれ北九州
（FBS）
から受けました❤

☜あっぱれ
北九州
の映像

１．企画名

だいすき　にっぽん

子どもたちに伝えたい「食」と「あそび」と「ことば」

２．主催者名　　『だいすき　にっぽん』実行委員会

３．企画代表者　　西南女学院大学保健福祉学部栄養学科　青木るみ子
西南女学院大学短期大学部保育科　　藤田稔子

４．概要

（１）活動の概要

日本の四季折々の慣習や年中行事には、昔の人々の「智恵」「技」「願い」が込められています。この想いを大切に、大学・大学短期大学部の教職員と地域の職人から次代の社会を担う大学生・短大生へ、そして小学生とその家族へ、伝承していく活動で、今年で 6 年目となります。

（２）プログラム構成

毎回、10：00-15：00 の時間帯で決まったプログラム進行、「食」「ことばあそび」「あそび」の内容で実施しています。

「食」：栄養学科青木ゼミを中心に、国内外の年中行事や栄養面など多面的に考え計画し、テーマに沿った食育授業後、子どもと保護者と共に調理実習をおこないます。5 月は、新茶の香りを体験し、味わいました。この回はお菓子作りでしたので、昼食は別途クッキング隊が作ってくれました。

また、3 年前より、北九州市産業局のご協力を得て、「水産課」「農林課」交互にお手伝いいただいています。今年度は、「水産」の年。北九州近海で捕れる魚種豊富なお魚の取り扱い方を学び、調理しました。

「ことばあそび」：学生達が“茶”が付くことわざを探し、カルタあそびにしました。思いのほかたくさんのことわざが見つかり、日本語の豊かさを感じた場面でもありました。　御節料理の意味は、日本人であればぜひ知っておきたいこと。この想いは、実行委員会全員一致の想いでした。今年のお正月は、子ども達だけでなく学生達も意味を噛みしめつつ御節料理を頂くことができました。

「あそび」：12 月の「独楽あそび」は、参加者の子ども達からのリクエストでおこないました。年齢によっては、白木の独楽に絵付けして独楽回しを楽しんだり、お友達と競い合ったり、それぞれに楽しみました。

今年度は、大学保健福祉学部看護学科・福祉学科・栄養学科、人文学部英語学科、短期大学部保育科の学生達で運営しました。

12 月にお母様向け・子ども向けのアンケートをそれぞれ実施しました。目的は、次年度の計画の参考とするためです。この発案は、学生達からであり、アンケートも学生達が作成し実施後の集計も全て行いました。

（２）対象者と開催場所

募集人数は、小学生 30 名程度。

開催場所は、西南女学院大学・西南女学院大学短期大学部

（３）内容および参加人数

開催日	実施内容	参加者人数
第１回（5/12）	「食」新茶に合う“和菓子” 「ことばあそび」“茶”が付くことばあそび 「あそび」色々なお茶を淹れよう	子ども　16 名 保護者　 9 名
第２回（8/20）	「食」北九州の水産 「ことばあそび」伝承あそびの本名は？ 「あそび」目隠しをして遊ぼう	子ども　21 名 保護者　8 名
第３回（12/21）	「食」お正月のご馳走 「ことばあそび」御節料理の中身の意味は何？ 「あそび」独楽あそび	子ども　17 名 保護者　10 名

５．参加者からのこえ

・料理もあそびも大変満足でした。
・“おもてなし”に感動しました。
・開催回数がもっと増えたら嬉しいです。
・普段体験できないことをさせていただいて大変ありがたいです。
・保護者の参加費をできれば少し安くして欲しいです。　　などなど

６．活動経費

参加費　１名￥700

【収入】参加費￥54,800・地域連携室活動補助金￥50,000・芳賀財団助成金￥120,000
（個人研究費での支払い有り）

【支出】広報（DM・ポスター）￥130,000・保険料￥3,120・細菌検査料￥35,980
漁師さんへの講師謝金￥36,000・食材費￥90,878・あそび関係材料費￥20,219
その他￥72,000

７．今後の課題

・活動回数は、補講日との関係で、年々減少傾向にあります。活動日の選定は苦慮しています。
・今年度は芳賀財団から活動助成金をいただき大変助かりました。今後も予算確保に努めてまいります。

８．御礼

今年度は、天皇陛下退位・即位に伴う 10 連休等の影響で、土曜日が全て補講日になるという非常事態となりました。活動を諦めることも考えていましたが、学生達の強い意志から「嘆願書」が提出されました。女学院がこの学生達の想いを受け入れてくださり、日曜日開催が可能となりました。当日は、学院宗教主事の古川先生が主日礼拝をまもってくださり、この「だいすきにっぽん」にふさわしいメッセージを頂くことができました。古川先生、谷川先生、院長先生はじめ皆々様に心から感謝申し上げます。

今年度も、北九州市水産課と漁業組合の方々のご協力を得ることができました。参加者の満足度が非常に高い会になったことはご協力いただいた皆様のおかげと感謝しています。

そして！学生スタッフ全員と毎回参加してくれる親子に最大級の“ありがとう”を。最後に…この会に関わる応援してくださる方も含め、全ての皆さまに心からお礼申し上げます。

以上

だいすき　にっぽん

添付資料

2019 年度のポスター

5 月：お団子の粉をお姉さんに手伝ってもらってこねこね

8 月：オコゼを
触ってみたよ♡

教えてもらいながら
お魚さばいたよ♪

5 月：お茶のことわざ
面白い

12 月：ちょっと早めのお正月

5 月：お茶は最後の一滴まで

8 月：福笑いの準備

8 月：みんなでスイカ割り
ちなみに若松産スイカ

12 月：独楽回しで勝負！
学生は事前に特訓（笑）

1. 企画名：SAT システムを使った食事診断会
2. 組織名：まなびと ESD ステーション～食から始まる健康プロジェクト～
3. 代表者：保健福祉学部　栄養学科　田路千尋
4. 概要

【目的】

北九州市食育に関する実態調査（2017）[1)]によると、「朝食を毎日食べる人の割合」は 20 歳代男性で 43.2%、女性で 52.9%、「食育についての関心度」は 20 歳代男性で関心があると答えた者は 20.3%、女性で 25.7%と若い世代の食に関する問題点が数多く抽出されている。一方で、北九州市は政令市の中でも、高齢化率が最も高いにも関わらず、男性の平均寿命と健康寿命の差は 10.4 年、女性の平均寿命と健康寿命の差は 14.0 年と、全国平均男性 9.2、女性 12.7 に比べ長いことから [1)]、高齢者の低栄養やロコモティブシンドロームなどによる QOL の低下が危惧されている。しかし、行政が行う健康教室や栄養相談は、もともと食や健康に高い興味を持つものしか参加せず、無関心期にある者が自分の食実態について把握し、改善意欲をもつ機会は少ない。以上のことから、市民が健康でいきいきとした生活を営み、活力のある社会を実現するために、適切な食事量や食事バランスといった正しい食知識の提供を行い、市民の健康増進に寄与することを目的とする。

【対象】

北九州市民および大学生（ESD ステーションの前を歩行中または ESD に活動に来ている方）

【内容】

1) 実施方法

① ESD ステーション前を通行中の市民にチラシを配布しながら声をかける(添付資料)。

② SAT システムの料理サンプルの中から、「自分が食べた料理(またはそれに近いもの)」を選択し、トレーに 1 食分の食事を乗せる。

③ トレーを SAT 診断の読み取り機に乗せて食事を診断する。診断結果は、紙媒体で印刷し返却する。

④ 選択した食事内容の診断結果が表示された液晶パネルと印刷された用紙を用いて、食事量についてスタッフ学生が説明をする(添付資料)。

※食事診断 SAT システム[(株)いわさき]とは・・・エネルギーやたんぱく質などの栄養情報が搭載された IC タグのついた実物大の立体料理模型を選び、読み取り機に乗せると、選択した料理に関する栄養価計算の結果が瞬時にパソコンに表示され、栄養バランスを星 5 つで 5 段階評価する。写真等の平面媒体と違い、具体的な量を示し、触ることができるため、選んだ食品の量的な把握や共有がしやすく、指導者にとっても対象者にとっても、わかりやすい栄養相談ツールである。

2) 日時：2019 年 7 月 20 日(土)、11 月 8 日(金)13 時～15 時

3) 場所：まなびと ESD ステーション(北九州市小倉北区魚町 3 丁目 3-20 中屋ビル地下 1 階)

4) 実施者：栄養学科 4 年　10 名

事前に、6 パターン程度の食事診断の結果サンプルをもとに、ペアで結果解説のトレーニングを行い、本番に臨んだ。

5) 対象者：食事診断を行った市民　合計 24 名

6) インシデント：特記事項なし

【結果】

1） 対象者

食事診断を行った市民は、合計 24 名（7 月 17 名、11 月 7 名）であった。年代別では、10 代 4 名、20 代 5 名、30 代 4 名、40 代 1 名、50 代 1 名、60 代 4 名、70 代 4 名、80 代 1 名)であった。本活動場所である「まなびと ESD ステーション」は、小倉北区の商店街に存在する。その施設前でチラシを配布するには、警察署が発行する道路使用許可証が必要であることから、許可が間に合わなかった 11 月は敷地内からのみの声掛けを行った。また、7 月に実施した日は、国の重要無形民俗文化財として指定された「小倉祇園太鼓」と同じ日であったことから商店街の人通りも多くみられた。そのことより 11 月よりも 7 月の参加人数が多かったと考えられる。

2） 結果評価

食事診断後にアンケート調査を実施した。その内容は、①朝食は毎日食べていますか？②学生の栄養アドバイスはどうでしたか？③バランスの良い食事は理解できましたか？④指導前後で食育への関心は変わりましたか？⑤今後の生活に役立てたいとおもいますか？⑥本日の指導について評価を判定してください の 6 項目であった。各項目ともに高い評価を得ており、特に④⑤項目では、全ての対象者が変わったと回答した（図 1)。

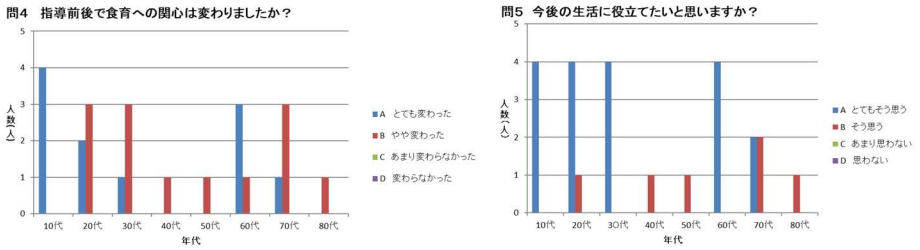


図 1 アンケート結果

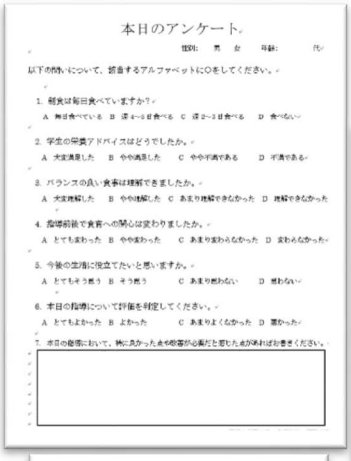
【考察】

アンケート結果より、年代が高くなるにつれて食についての関心が強く、指導内容の理解も早かった。10 代は、学校での食教育がされているため予め理解はできていた。しかし、20 代では食事診断内容をあまり理解できていない者もいた。このことは、20 代では食を学ぶ機会が少ないため、一部の人はあまり理解できていなかったと考えられる。北九州市では、20 代の朝食欠食率が低く、食に興味がある者の割合が低いことが問題となっていることから 20 代を中心とした食育の普及が重要だと考えられる。今回の食育活動を通して全ての人が食育への関心が強くなったと回答されていた。そのことから、今後も地域住民への食育活動を継続してくことで、少しでも市民の食に関する関心が高まると考えられる。

【文献】

1） 北九州保健福祉局：平成 24 年北九州食育に関する実態調査・調査結果について，北九州市印刷物登録番号第 1210190F 号，2013 年

添付資料

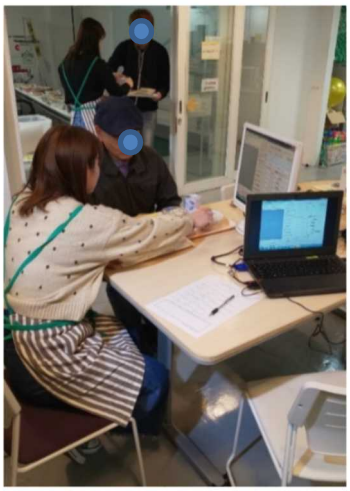


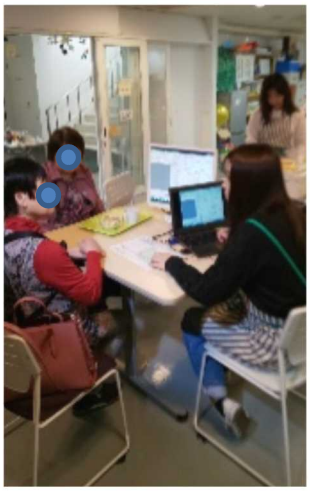
本日のアンケート。

性別：　男　女　年齢：　　代

以下の問いについて、該当するアルファベットに○をしてください。

1. 朝食は毎日食べていますか？
   A　毎日食べている　B　週4～6日食べる　C　週2～3日食べる　D　食べない
2. 学生の栄養アドバイスはどうでしたか。
   A　大変満足した　B　やや満足した　C　やや不満である　D　不満である
3. バランスの良い食事は理解できましたか。
   A　大変理解した　B　やや理解した　C　あまり理解できなかった　D　理解できなかった
4. 授業前後で食育への関心は変わりましたか。
   A　とても変わった　B　やや変わった　C　あまり変わらなかった　D　変わらなかった
5. 今後の生活に役立てたいと思いますか。
   A　とてもそう思う　B　そう思う　C　あまり思わない　D　思わない
6. 本日の授業について評価を判定してください。
   A　とてもよかった　B　よかった　C　あまりよくなかった　D　悪かった
7. 本日の授業において、特に良かったもの改善が必要だと思ったものがあればお書きください。





1. **企画名**：『食と健康』に関する地域密着型食育活動の展開
2. **主催者名**：西南女学院大学保健福祉学部・九州歯科大学口腔保健学科
3. **企画代表者**：西南女学院大学保健福祉学部栄養学科　近江雅代
4. **概要**

(1) 活動の経緯と特色

本学および九州歯科大学は、2014 年度より、『食と健康』に関する連携公開講座を開催し、2019 年度で 6 年目を迎えている。本事業は教員と学生の協働による『食と健康』に関する食育活動を行い、地元住民の生活習慣の改善を図ることを目的としている。本学は主として『食べ物と健康(栄養・看護・福祉)』の立場から、九州歯科大学は『口腔保健』の視点から、毎回テーマを決めて、開講している。また、地域住民自身の生活習慣改善への強い動機づけとなるよう、本事業の大きな特徴として、公開講座は 2 部制とし、『講演』と『食育イベント・食事提供』をセットとしている。テーマに合わせた食事を講演の直後に喫食することにより、参加者はより一層、知識が高まるものと推察される。さらに、本事業への学生の積極的参加を促し、学生自身が一連の食育推進活動を実体験することにより、社会貢献ならびに専門職業人としての意識を高め、専門的知識を備えた人材養成・育成を推進することも本事業の目的であり、特色ともいえる。

(2) 対象と開催場所

参加者：北九州市の地域住民　開催場所：西南女学院大学 8 号館 8101 教室

(3) 実施日時、参加者数、実施内容

◆第 1 回

開催日	2019 年 6 月 22 日(土)	一般参加者数	141 名
講演テーマ	人生 100 年時代！美味しく楽しく令和を生きる ～万能調味料『塩糀』の作り方と目からウロコの活用法～		
講師	公益社団法人福岡県栄養士会会長　　大部正代先生		
給食	塩糀を使った一汁三菜メニュー		
イベント	血圧測定・食事診断・骨密度測定・口腔検査・お口の相談会		

◆　第 2 回

開催日	2019 年 8 月 24 日(土)	一般参加者数	114 名
講演テーマ	人生 100 年を支える大事な骨！～骨活生活、コツコツ始めませんか？		
講師	西南女学院大学保健福祉学部栄養学科　　手嶋英津子講師		
給食	夏の骨活ランチ		
イベント	血圧測定・食事診断・骨密度測定・口腔検査・お口の相談会・栄養ワンダー		

◆第 3 回

開催日	2019 年 10 月 19 日(土)	一般参加者数	82 名
講演テーマ	健康で豊かに生きるために、健康長寿を目指して ～専門家による健診と自宅でできる健康管理～		
講師	西南女学院大学保健福祉学部栄養学科　　髙﨑智子教授(医師) 九州歯科大学歯学部口腔保健学科　　邵　仁浩准教授(歯科医師) 西南女学院大学保健福祉学部栄養学科　　近江雅代教授(管理栄養士)		
イベント	血圧測定・食事診断・骨密度測定・口腔検査・お口の相談会		

◆　第 4 回

開催日	2019 年 12 月 14 日(土)	一般参加者数	103 名
講演テーマ	“糖尿病と歯周病”の関係を学んで“歯・口と全身の健康”を保とう！ 糖尿病と歯周病の関係について		
講師	九州歯科大学歯学部口腔保健学科　　園木一男教授		
給食	マグネシウムたっぷり！ヘルシーランチ		
イベント	血圧測定・食事診断・骨密度測定・口腔検査・お口の相談会		

(4) インシデントの有無：なし

5. 評価

(1) アウトカム評価

本事業の参加者数は公開講座開始から、増加の一途を辿っており、近年は定員 130 名に対し、180 名程度の申し込みがあるため、参加者は抽選にて選定している。また、参加者はリピーターが約半数を占めるが、より広く地域住民から募集すべく、2018 年度からは近隣の市民センター、シニアサマーカレッジ、学外の講演会等においてチラシ配布を実施している。その結果、以前より増して、情報発信の機会を得たため、抽選倍率がより高くなっている。2016 年度は参加者より 200 円、2017 年度以降は 300 円を食事代として徴収しているが、応募数および参加者数が減少することはなかった。

参加者アンケート『普段の生活で心がけていること』のうち、『塩分』が高かったのは、これまで本事業のテーマに複数回挙げられ、参加者は実際に減塩食を喫食し、調味に慣れてきたことが、行動変容の一因になったものと推察される。さらに、『血圧測定』の増加は、学生による血圧測定による効果と考えられ、本事業は参加者が自分自身の生活習慣を改善する強い動機づけになっていると考えられる。

(2) プロセス評価

本事業は本学および九州歯科大学による『食と健康』に関する啓発活動を通して、地域と大学との連携を深め、地域住民の健康増進に貢献するものであり、地域密着型の食育活動として、地域住民の食に対する関心を深め、生活習慣改善への動機づけに繋げることを目的としている。また、参加型学生教育として学生の積極的参加を促し、学生が公開講座の遂行に関わる一連の業務等を実体験することにより、社会貢献ならびに専門職業人としての意識を高めることも目標としている。例えば、栄養学科の学生は食育イベント(食事調査、骨密度測定、血管年齢測定等)および講演後の食事提供(食事内容の立案、献立作成、栄養価算定、発注、検収、大量調理、栄養媒体作成等)を担当し、本事業の遂行に関わる一連の栄養士・管理栄養士業務等を実体験することは、自身の食生活や学習への取組の向上、さらには、社会貢献ならびに専門職としての意識を高めることに繋がっている。また、看護学科の学生は血圧測定を担当し、地域住民の健康意識向上に貢献している。実際、本事業の参加者アンケート『普段の生活で心がけていること』の『血圧測定』が増加傾向を示しているのは、看護学生による血圧測定の実施による効果と考えられ、本事業が参加者自身の生活習慣を改善する強い動機づけになっていると考える。

(3) 企画の妥当性と今後の課題

公開講座実施に際し、両大学教員による公開講座協議会を年 4 回開催し、実施日、講演テーマ、演者、食育イベント等を決定している。講演テーマについては前年度アンケート等から、地域住民の関心が高いものを取り入れている。また、食育イベントや食事提供は両大学の学生および教員の協働にて実施しており、両大学の学生が一連の食育推進活動を実体験することにより、社会貢献ならびに専門職としての意識を高めることに繋がっている。一方、参加者の多くは高齢者であり、リピーターが定着してきたことは、本事業への参加が市民交流の場となり、健康増進に対する意欲向上だけでなく、高齢者の閉じこもり予防等にも繋がっていると考えられる。今後も引き続き、地域に根差した公開講座の発展を目指し、テーマやイベント内容について、より一層の検討を加えるとともに、学生の体験学習の場としての役割の一翼を担いたいと考える。

6. 決算

別紙に記載

7. 謝辞

本事業の一部は、『2019 年度西南女学院大学共同研究費』により、実施されたものである。また、本公開講座にご参加いただきました地域住民の皆様ならびに多大なるご協力を賜りました西南女学院大学および九州歯科大学の教職員・学生の皆様に対し、心より感謝申し上げます。

8. 添付資料

・写真資料

・決算報告

写真資料

写真 1：第 1 回講演(大部先生)

写真 2：食育イベント(血圧測定)

写真 3：食育イベント(骨密度測定)

写真 4：食育イベント(口腔検査)

写真 5：給食(夏の骨活ランチ)

写真 6：給食提供&喫食

１．企画名　　地域住民の運動と栄養に関する栄養相談や食事指導の支援活動
～スポーツ施設を利用する地域高齢者の身体状況について～

２．主催者名　西南女学院大学及び戸畑スポーツコミュニティ事業団　健康増進活動
組織名　北九州市立　浅生スポーツセンター（株式会社オリエンタルコンサルタンツ）

３．企画代表者　西南女学院大学　保健福祉学部　栄養学科　講師　山田志麻
福祉学科　稲木光晴教授、山本佳代子助教、栄養学科　石井愛子助手
北九州市立　浅生スポーツセンター　総括責任者　川本卓史

４．概要

（１）背景及び目的

浅生スポーツセンターは、地域住民が気軽に利用できるスポーツ施設として有用であると考えられるが、これまでにスポーツ施設等では、運動と食事や栄養について気軽に相談できる窓口がなかったのが現状である。そこで本研究は、運動習慣のある高齢者を対象に、食事の摂り方や栄養のバランス、身体組成を把握し、健康で元気な高齢者の身体づくりを行うため、定期的に食事指導や身体組成の測定を行うことによって経時的変化をとらえ、生活習慣の改善、低栄養の予防などを踏まえた、健康の維持増進を目的として行った。

（２）対象者及び開催場所

対象者：平日の浅生スポーツセンター利用者（主にシニアを対象とする）
※診断や測定結果の利用について説明を行い、同意を得られた方に行った。

実施日：2017 年～2019 年 12 月

実施場所：浅生スポーツセンター　会議室

参加者数：1 クール 10～15 名

（３）実施内容

・身長測定
・握力測定
・下腿周囲長測定
・パソコンを使用した簡易栄養診断および栄養相談
・体組成測定（InBody）による適正体重、筋肉量、脂肪量、肥満指数等の確認
・ASTRIM FIT を利用した血色素測定

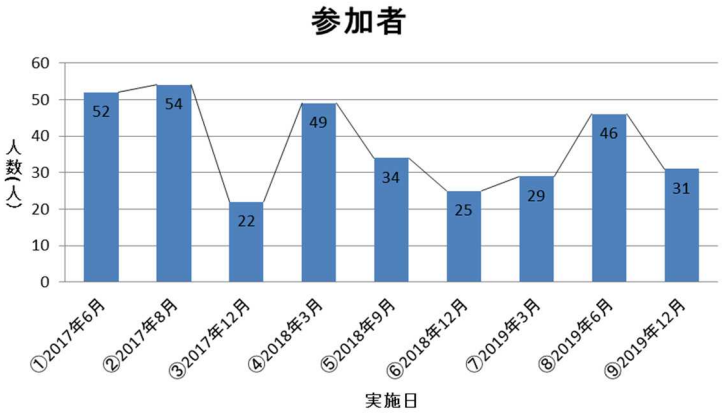
1 人当たり所要時間は 10～15 分。記入用紙は、同意書、食事チェックシート、高齢者用アンケートの 3 枚、配布用紙は、食事診断結果表、InBody 結果表、握力及び血色素記録表の 3 枚とした。

（４）インシデントの有無：なし

５．評価

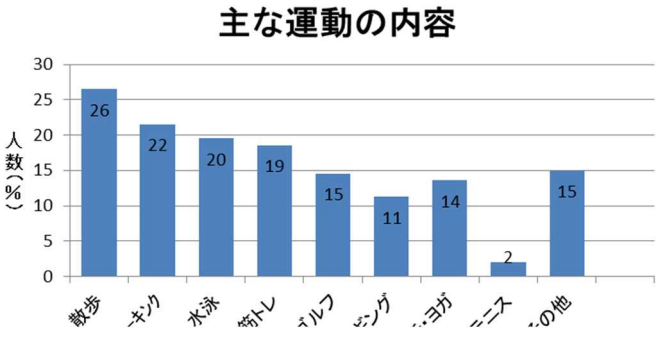
1）参加者人数

2017 年 6 月から開始した本事業は新規、継続者を含め、3 日間の実施で約 50 名が目標であった。12 月は参加者が少なく、開催時期により利用者の人数が変動することが分かった。



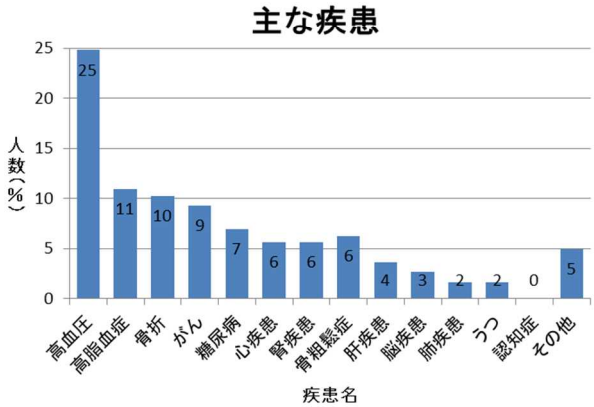
2）主な運動の内容

参加者の運動は散歩が最も多く、施設を利用した運動としては、水中ウォーキング、水泳、筋トレが多く、その他では、卓球が多い結果であった。



3）参加者の主な疾患

参加者の主な疾患は、高血圧が最も多く、次いで高脂血症、骨折、がん、糖尿病の順であった。



4）主な参加者の体組成測定結果

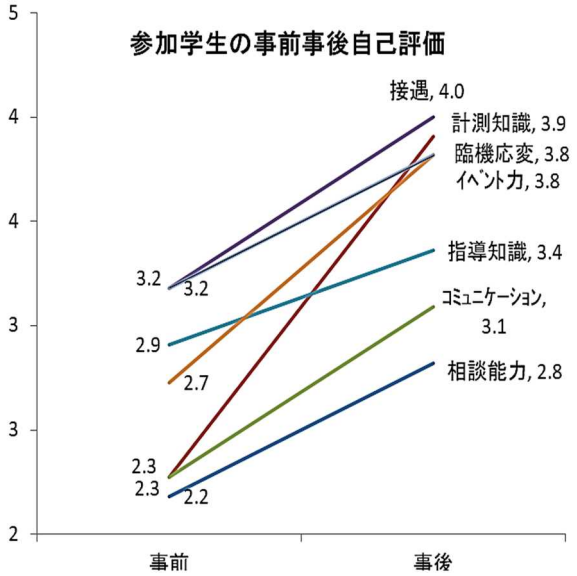
主な参加者の体組成計測結果

	全体		男性				女性			
	平均値	SD	平均値	最小値	最大値	SD	平均値	最小値	最大値	SD
	n=163		n=40				n=123			
年齢（歳）	72.0	5.6	72.3	62.0	88.0	6.2	71.9	60.0	87.0	5.4
身長（cm）	156.7	9.3	168.5	156.9	193.0	8.2	152.8	139.0	167.0	5.7
体重(kg)	55.6	10.5	65.6	43.7	86.2	9.9	52.4	32.5	81.4	8.4
水分(kg)	29.0	5.8	37.1	27.1	47.9	5.2	26.3	20.0	31.8	2.9
たんぱく室(kg)	7.7	1.6	9.9	7.3	12.8	1.4	7.0	5.3	8.5	0.8
ミネラル(kg)	2.7	0.5	3.4	2.5	4.6	0.5	2.5	1.9	3.1	0.3
体脂肪量(kg)	16.2	6.1	15.3	1.6	27.1	6.2	16.5	4.3	38.1	6.0
筋肉量(kg)	37.1	7.5	47.6	34.8	61.3	6.6	33.7	25.6	40.8	3.7
除脂肪体重(kg)	39.4	7.9	50.3	36.9	65.0	7.0	35.8	27.2	43.3	3.9
BMI（kg/m^2）	22.6	3.3	23.1	14.0	29.5	3.0	22.4	14.9	34.3	3.3
体脂肪率（%）	28.8	8.0	22.8	3.0	39.1	7.7	30.8	12.3	46.9	7.1
InBody スコア	71.0	5.5	70.3	50.0	93.0	7.5	71.3	58.0	80.0	4.6
四肢骨格筋量（SMI）	6.2	1.1	7.6	5.6	11.5	1.1	5.8	3.9	7.5	0.6

60 代以上の参加者の体組成測定の結果、BMI の最小値が男性 14、女性 14.9 と低体重がみられ、一方、最大値は、男性 29.5、女性 34.3 と肥満が見受けられた。

5）学生による事前事後の自己評価（5 点満点）

栄養相談の実施前後に参加学生に自己評価を行った。すべての項目において、事後評価が高く、7 項目中「5.栄養指導や体組成説明のための知識」以外の 6 項目で有意な差が認められた。



6）学生の感想

・健康や栄養、食事に興味がある人が多い。
・幅広い年齢に応じた栄養指導ができなければいけないと感じた。
・基本的な知識を身につけ、わかりやすく説明できる力が必要。
・若い時から食事に気を付けているという人が多い。
・テレビなどで誤った知識を身につけている人がいた。
・相手が話しやすいように話を広げる難しさを感じた。
・対象者の年齢に合わせた言葉遣いや話し方に注意する必要がある。
・運動を行っている人は筋力や握力が高い。
・習慣的に運動を行っていても、脂肪や糖質を摂りすぎていると体脂肪が高い。
・食事制限がある方もいるので臨床の知識が必要だ。
・食事や栄養の知識でなく運動やトレーニングの知識も必要だと感じた。
・普段の仕事や運動習慣などをうまく聞き取り、測定結果を見ながら話すと説明しやすい。

7）利用者様の声

・体重管理が定期的にできるので励みになる。
・体脂肪や筋肉量がわかるので運動の目安になる。
・日頃の食事の内容や摂取量について相談できた。

６．決算

活動助成金：50,000 円　　支出：インクジェット、ポスター、トナー　39,860 円

７．今後の課題

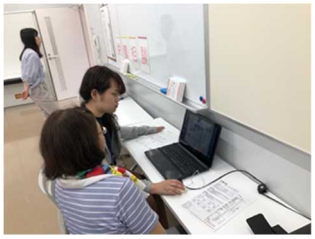
- 学生の授業に支障のないスケジュール調整
- リピーターの個人対応及びその後の追跡
- 利用者の要望に見合った調理実習や試食の検討
- 健康体操教室、食育講座、スポーツ栄養学講座などの講座の開催を検討

８．謝辞

栄養相談に参加、ご協力いただきました、スポーツセンターの利用者様に心より感謝申し上げます。また、スポーツセンターの職員の方々、共同研究者の先生及びゼミ生のご協力により、このような活動ができましたことを心からお礼申し上げます。

９．添付資料

チラシ、食事診断結果表、体組成分析結果（InBody）、写真（身体測定、栄養相談の風景）



企画名：尿漏れを予防しよう
代表者：保健福祉学部　看護学科　吉原悦子

【概要】
① 背景
高齢者は、加齢による機能低下のため下部尿路症状が起こりやすい。高齢者の尿失禁やおむつを使用している割合は 70 歳代以降で急激に増加しており、生活に不具合を生じていることが推察される。また、羞恥心を伴うため、他者に相談することが難しく、QOL にも影響を及ぼしているといえる。しかし、医療機関を受診している率は少なく、誰にも相談せずに排尿の問題を抱えている者は多いといえる。その中でも女性は、分娩や骨盤底脆弱により尿失禁を起こしやすいにも関わらず、受診率は男性よりも低いことが明らかになっている。

② 対象者
井堀市民センター周辺の地域住民で参加の意志がある女性。

③ 活動の目的
本活動は、地域在住の方が尿失禁予防と体操について関心を寄せ、実践につなげることを目的とする。また、学生は地域に出向くことで視野を広げることを目指す。

【実践内容】
参加学生の募集
学内の掲示板に活動について掲示し、募集を行った。また、教員から学生に声をかけ、参加者を募った。

事前学習会
日本コンチネンス協会より講師を招き「高齢者の排泄コントロール」について学習会を行った。
具体的な排尿の仕組みや排尿障害について再学習し、尿失禁による生活への影響を確認した。さらに、尿失禁予防体操について演習を行った。

事前準備
準備期間を設け、企画運営についての準備を行った。媒体の準備、尿漏れ体操の準備を検討し、学生同士で役割分担を行った。また、チラシを作成し、市民センターに掲載を依頼した。

当日の活動内容
日時：2019 年 9 月 10 日（火）10:00-11:00
場所:井堀市民センター多目的ホール
住民参加者：地域住民、市民センターの職員等 15 人
学生参加者：看護学科 3 年生 1 名、4 年生 8 名

企画内容：看護学科教員による「尿漏れのアンケート結果からお伝えしたいこと」、学生による「尿漏れのメカニズム」について講演を行った。その後、パンフレットを用いながら尿漏れ予防体操を参加者とともに行った。最後には質疑応答の時間を設け、終了後には講演会についてのアンケートの記載を依頼した。

インシデント：特記事項なし

【実践内容】

アウトカム評価

参加者へのアンケートの回収率は 100%であった。アンケート結果は、尿漏れについての健康教室を受けたことがある住民参加者は 20%であり、ほとんどの住民参加者が初めての受講であった。骨盤底筋の運動を知っていた者は 73%であり、尿漏れについての健康教室の受講がなくても知っていることが伺えた。しかし、これまでに骨盤底筋の運動を実施したことがある割合は 16%であり、実践までには至っていなかった。しかし、参加したあとに今後実施しようと思うかの問いには全員が「そう思う」と答えており、今回の尿漏れ予防体操が運動実践につながる可能性がある。

自由回答では、「実際に正しくやってみると自己流でするのと違っていた」、「予防について話が聞けて良かった」、「よく説明をしていただいたので実行しようと思う」など肯定的な評価であった。

また、活動参加学生（以下、学生とする）は参加のきっかけについて、「教員に勧められて」がほとんどであったが、「地域貢献活動をやってみたいと思った」や「企画の内容に興味を持ったから」という学生もいた。学生自身が主体的に参加したとは言い難いが、終了後、学生全員が「学びがあった」としており、この活動を有意義だったと答えた。

学生が感じた活動当日の気づきでは、「自分たちが持っている知識をどう表現すれば相手に伝わるのかを考えるのが難しかった」、「このような活動は知識を学ぶ以外にも参加者同士の交流にもなるいい機会だなと思った」、「実際に体操の場面では体を動かすので安全への配慮が必要と感じた」、「住民参加者とのコミュニケーションや実際の関わりの場面で、どう距離をとって接したらよいか、難しさを感じた」と述べていた。また、学生はこの活動が、自分が実践する看護ケアにどのように生かしていけるかについては「チームで協力して行うことで、より良い指導につながると思う」、「看護師として、自分の疾患について理解が不足している患者さんや、今後の生活に不安を抱いている患者さんに対して少しでも私の言葉で不安の軽減や今後に対する意欲の向上につなげることができたらいいなと思った」、「妊娠や出産で尿失禁は起こりやすくなるため、この知識を母親に伝え、トラブルを減らすきっかけになるように指導でき、助産師としても生かしていけると思った」、「地域での活動に参加することや、仲間と過ごすことはとても大切だと感じたので、そのようなことも頭に入れながらケアを行っていく」としていた。

プロセス評価

本活動の目的は、地域在住の方々に対し、尿漏れ予防体操の関心を寄せ、実践につなげることを目的とした。また、学生は地域住民との接点が少なく、今回の活動をきっかけに地域に目を向けるきっかけを持つことを目指した。活動内容については学生が中心に企画を行った。まずは日本コンチネンス協会の講師による学習会で、学生全員が共通の知識を持って活動を行うことを目標とした。学生は、「尿漏れが閉じこもりの原因になる」、「尿漏れで困っている人は高齢者だけではない」、「予防には普段からの外出や運動などの活動が大切」、「失禁一つにしても色々な原因があり、それぞれの対策が必要である」と学んでいた。そのことを踏まえ、参加者に排尿のメカニズム、尿漏れのメカニズム、尿漏れ予防体操について伝えていく内容・方法を吟味し、資料を作り当日についても役割分担を行った。教員は、オブザーバーとして関わり、できる限り学生の主体性を重んじた。

学生は4年生と3年生が参加した。特に3年生は、4年生のコミュニケーションや活動実践の様子から学ぶことも多く実習に生かしていきたいと述べており、学年間で交流も学びとなり、参加学生の幅を広げていく必要があるのではないかと考える。

企画の妥当性と今後の課題

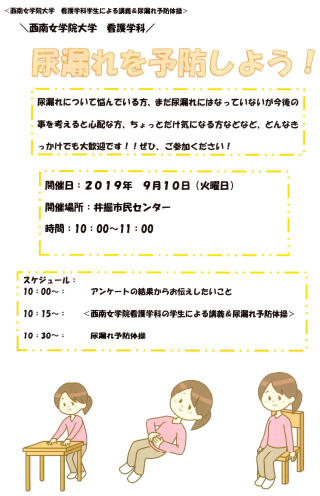
住民参加者に対して尿漏れ予防体操の関心を寄せ、実践につなげること、学生が地域に出向くことを目的とした活動である。今回は、地域に根付く市民センターでの開催であり、住民参加者は安心して参加している状況であり、学生も受け入れられている雰囲気の中での活動でき、相互作用として良い結果になったと思われる。これを一つのきっかけとして今後も対象や場所を広げ、地域の方との関わる活動を継続していくことが必要である。

決算

共同研究費「地方中規模私立大学における地域貢献活動のプロジェクトマネジメントの研究」（代表：吉原悦子）にて実施。

＊尿漏れのメカニズムについての説明

＊尿漏れ予防体操



＊学生作成のチラシ

１．企画名　北九州市クルーズおもてなしイベント
２．主催者名　西南女学院大学人文学部観光文化学科
３．企画代表者　西南女学院大学人文学部観光文化学科　劉明
４．概要
（１）　活動の経緯と目的

西南女学院大学と北九州市は、包括連携協力に関する協定を 2018 年 9 月に締結したところである。

観光文化学科の劉ゼミ（インバウンド観光）は、九州へのインバウンド促進に力を入れている。劉ゼミと市の連携で、門司・西海岸での外国クルーズ船寄港時における学生を活用したおもてなしイベントを実施する。

イベントでは観光マップ配布、チェキ撮影、消しゴム印鑑作り、書道体験、着物体験などの活動を通して、外国人に日本の文化を知ってもらうことで、感じた良さを自国で広めてもらい、多くの人に日本に興味を持ってもらうこと、北九州市を訪れる外国人観光客が増えること、また、外国人と直にコミュニケーションをとることで、学生の外国語でのコミュニケーション能力を高めることを目的とする。

（２）　実施日時・場所・参加者数・活動内容

実施日	時間	場所	活動内容	参加者数
2019 年 4 月 21 日	8：00～18：45	門司港 西海岸	書道体験 チェキ配布 消しゴム印鑑	学生　12 人
2019 年 5 月 5 日	8：00～17：45	門司港 西海岸	書道体験 チェキ配布 消しゴム印鑑	学生　11 人
2019 年 5 月 9 日	9：00～17：30	門司港 西海岸	書道体験 チェキ配布 消しゴム印鑑	学生　10 人

5．評価

〇学生参加者の感想

学校内だけでは、外国語でコミュニケーションをとることができる機会は限られている。そんな中で本場の外国語に触れるだけでなく、色んな方々と協力することの大切さや、中途半端なことはできないという社会に出る責任を感じることができたクルーズおもてなしイベントは、本当に有意義なものであったと思う。

〇市担当者の評価

市役所、民間サイド両方から、クルーや観光客に対して、北九州に良い印象を持ってもらうことができた。

〇メディア（TVQ）の評価

西南女学院大学の学生のおもてなしの心遣いは、十分伝わる。

〇外国人観光客の感想

港で歓迎してもらえて楽しかったよ。また、来たい。

〇今後の課題

お客様とコミュニケーションが取れるように簡単な英語が話せるよう各自勉強する必要がある。また、お客様を呼び込んで、イベントの内容を英語で説明できるよう、あらかじめ英語でマニュアルを作って練習する必要がある。お客様に楽しそうと思ってもらえるようなブースの雰囲気作り全員が積極的に英語で呼び込むことが必要である。

6．活動経費

西南女学院大学内会計課からの助成金：5 万、北九州市クルーズおもてなしイベント助成金：10 万円の計 15 万。おもてなしイベント用の道具の購入費用及び交通費 1 人の所有額（千円）を含める。また、交通費の一部を西南女学院大学会計課に請求した。

7．謝辞

北九州市クルーズおもてなしイベントにご指導いただいた北九州市港湾空港局クルーズ・交流課の皆様ならびに多大なご協力をいただいた西南女学院大学及び観光文化学科の教職員・学生の皆様に対し、心から感謝の意を申し上げます。

８．添付資料

北九州市クルーズおもてなしイベント実施時の様子（写真資料）

北九州市クルーズおもてなしイベント実施時の様子

１．企画名　　小 さ な 森 の 音 楽 会

２．主催者名　　井堀市民センター「人権講座」
　　＊『西南女学院 100 周年プレイベント』として開催

３．企画代表者　西南女学院大学短期大学部保育科　　末成妙子

４．概要

（１）活動の概要と目的

短期大学部保育科 2 年「こども音楽療育」受講生 23 名を中心に、西南女学院 100 周年プレイベントの１つとして、井堀市民センターで音楽会を開きました。北九州交響楽団との共演プログラム全曲に学生達が関わり、観客一体となって楽しく笑い飛び跳ね歌った会になりました。

この音楽会に秘めた想いがあります。それは…

①西南女学院が位置する校区「井堀小学校校区」への感謝の気持ちを伝えたい

②↑その方法は、西南女学院が「音楽」に強い学院だからこそ「音楽」の贈り物をしたい

③コンサートホールに行くことができない乳幼児や高齢者に手軽に音楽を楽しんでほしい

④学生達の練習の成果を皆さんに見ていただきたい

⑤井堀小学校校区を文化の香り高い街にしたい

（２）開催日、内容および参加人数

【開催日】2019 年 11 月 30 日（土）13：30～15：30

【PROGRAM】

♪　プロコフィエフ作曲　　交響的物語「ピーターと狼」
　　演奏：北九州交響楽団　　パネルシアター：こども音楽療育受講生

♪　新見南吉原作・中山真理作詞作曲　　音楽物語「ごんぎつね」
　　演奏：保育科２年　末成ゼミ

♪　中川李枝子、宮崎駿作詞・久石譲作曲　白川雅樹編曲　　「さんぽ」
　　覚和歌子作詞・木村弓作曲　　「いつも何度でも」
　　演奏：こども音楽療育受講生

♪　アンダーソン作曲　　The Typewriter
　　The Waltzing Cat
　　演奏：北九州交響楽団　　Typewriter ソロ：こども音楽療育受講生
　　猫：こども音楽療育受講生

【出演者】学生（「こども音楽療育」受講生・末成ゼミ・藤田ゼミ）30 名
　　北九州交響楽団 27 名、保育科教員 2 名　　総勢 59 名

【来場者】115 名

☝ホールに入りきれず、途中学生達が椅子をホール外に追加で出しました。

（３）活動の特徴

<u>①プログラムの内容を「動物」にこだわりました</u>

特に、末成ゼミが演奏した『ごんぎつね』は、情感豊かに歌い上げ、また、子ども達にもストーリーが分かるように大型紙芝居を用いて演奏しました。観客から大絶賛でした。

<u>②プログラム全曲に学生が出演しました</u>

北九州交響楽団との共演でしたが、決して「依頼演奏」ではなく、学生達が常に関わるようにプログラムを構成しました。特記すべき The Typewriter は、本物のタイプライターが打楽器として登場する面白い曲です。Typewriter が 1 行打ち終わるときになる「チーン♪」という音と、行を戻す「リターンキー」の音は、違うところから聞こえてくる不思議を子ども達は探しながら聞いていました。もちろん、ソロは、学生達がしました。曲が終わり、指揮者からスタンディングを求められ、Typewriter と bell、ギロを演奏した学生達はたくさんの拍手を頂きました。

③観客参加型の内容にしました

The Waltzing Cat では、「にゃおー」という猫の鳴き声は何回あるか、クイズをしたり、一緒に歌ったり…。曲の最後は、センターの館長さんが「ワンワン」と犬になっていました。観客皆さん笑いながら楽しみました。子ども達は立ち上がってピョンピョン飛び跳ねて楽しんでいました。

④北九州交響楽団との共演

今夏、北九州交響楽団から「女学院はもうそろそろ 100 周年？」と声をかけられ、聞けば、女学院創立 70 周年記念演奏会をした繋がりが判明しました。この一言が、今回 “100 周年プレイベントとして共演する” という発想に繋がりました。

⑤プログラム作成も学生達が頑張りました

プログラムを作成するにあたり、各曲について調べ、文章を何度も書き直すことはもちろん、院長先生、学長先生、学部長先生に自分達でお願いにあがり、挨拶文を書いていただきました。

５．音楽会を振り返って

ご来場いただきました皆様に「楽しかった！」「また演奏会してね」など嬉しい言葉をたくさんかけてもらいました。私たちも 1 回だけで終わるのは、何だか寂しく勿体ない気持ちになりました。

６．活動経費

【収入】地域連携室活動補助金　￥40,000　　100 周年プレイベント助成金　￥30,000

【支出】北九州交響楽団出演料　￥100,000　　楽器運搬費等諸経費　￥68,720

７．今後の課題

対外的な演奏会として準備を整えていく、また学外の人たちと共に音楽を作り上げる過程で、学生達のスキルアップは目を見張るものがありました。内輪だけの発表会では得られない体験であったと思います。今回は 100 周年プレイベントとして開催できましたが、今後も継続して開催したいと思いますが、現実的に実施可能か否かを十分に吟味する必要を感じています。

８．御礼

ご尽力いただきました全ての皆様に感謝申し上げます。

９．添付資料

当日配布のプログラム、実施時の様子（写真資料）

以　上

小さな森の音楽会

添付資料

当日配布のプログラム

こども音楽療育受講生による女性３声合唱♪

末成ゼミによる『ごんぎつね』臨場感あふれる歌声でした！

こども音楽療育受講生による女性３声合唱＆violin ソロ♪

violin 初挑戦（＾＾）

Typewriter のソロをやり遂げ、たくさんの拍手を頂戴しました

Waltzing Cat では、「にゃお～」のカウントを共に

学生がデザイン
しました♪

1. 企画名　第 31 回とばた菖蒲まつり 2019「高校大学 PR ブース」
2. 主催者　とばた菖蒲まつり実行委員会
3. 代表者　西南女学院大学短期大学部保育科　命婦恭子
4. 企画概要

1）目的：北九州市戸畑区の地域のイベントとして長年親しまれている菖蒲まつりにおいて、西南女学院大学と大学短期大学（本学）を紹介する。本学は、戸畑区に隣接する小倉北区井堀に立地し、在学生と戸畑区のイベントへの参加者との生活圏は重なっている。そのため、イベント参加者と学生が交流し、本学へ親しみを感じてもらうことが本活動の目的である。

2）対象：第 31 回とばた菖蒲まつり 2019 の参加者のうち、ワークショップへの参加を希望した地域住民。

3）内容：

①日時：2019 年 6 月 8 日(土)

②場所：夜宮公園(戸畑区夜宮 1 丁目)

③実施者：短期大学部保育科命婦ゼミ 1 年生 6 名

④参加者：まつりに参加した地域住民のうち約 120 名

⑤実施内容：切り抜いた折り紙や染め紙をカードサイズのラミネートフィルムにはさみ、オリジナルのカードを作成するワークショップを実施した。切り抜かれた紙にペンを使って絵を描き加えることもできる。完成したカードには、穴を開けリボンを通すことで、しおりとして使用することができるようにした。参加者は切り抜かれた紙をフィルムに並べたり、ペンを使って絵を描いたりするだけなので、未就学児でも気軽に参加することができる。所要時間は 10 分程度で、さまざまな出展がありステージイベントもあるまつりを周遊する妨げにもならない。

また、ブースの一画には大学案内や各学科のリーフレットを設置し、本学の紹介も行った。

5. 効果

本学としては初めての参加であった。2 日間のまつりに 1 日だけの出店であったが、予想よりも多くの参加者をえた。ワークショップの参加者の反応は、概ね好意的であった。ワークショップには参加しないがリーフレットなどを見て本学について質問する人もみられた。

実施した学生は、入学後 2 か月の 1 年生で学外での実習を体験する前であるため、ワークショップに参加した子どもたちとのふれあいは、学校での学びを実践する最初の場となった。自分たちが準備したものを使って、子どもたちが楽しんでいる様子を体験することで、保育職への想いを育む一助になったと考える。また、地域住民との交流は、学生がソーシャルスキルを学ぶ機会となった。

1. 企画名　第 21 回手づくり市場 in 北九州 2019
2. 主催者　手づくり市場 in 北九州実行委員会
3. 代表者　西南女学院大学短期大学部保育科　命婦恭子
4. 企画概要

1）目的：「手づくり」をキーワードに、手芸や木工、陶芸など様々なハンドクラフトの作家作品と趣味でハンドクラフトを楽しむ人のための材料や道具などを販売するブースが出店しているイベントである。同種のイベントとしては、北九州で最大規模であり来場者は 2 万人ほどであった。20 年以上の実績もあることから地域住民に親しまれている。そのようなイベントに、本学が実行委員として参加し、学生がワークショップを行うブースをもつことで、地域住民との交流を図り、本学に親しんでもらうことを目的としている。

2）対象：第 21 回手づくり市場 in 北九州 2019 の参加者のうち、ワークショップへの参加を希望した地域住民。

3）内容：

①日時：2019 年 11 月 2 日(土)、3 日(日･祝)

②場所：西日本総合展示場新館（小倉北区浅野 3 丁目 8－1）

③実施者：短期大学部保育科命婦ゼミ 2 年生 7 名

④参加者：イベントに来場した地域住民のうち約 150 名

⑤実施内容：毛糸を用いた指編みでチョーカーや髪飾りに活用できる小物を作るワークショップを実施した。来場者の多くは、ハンドクラフトに興味のある中高年の女性であるが、連休中の開催であり、家族連れや子どもたちも多く来場している。ワークショップのブースを訪れるのは、子どもたちが多く、未就学児から小学生くらいをターゲットとして計画した。また、イベント会場は広く、多くの出店があるため周遊の妨げにならないように、所要時間 15 分程度でできるものを準備した。ブース内には学科紹介のリーフレット等も備えていた。

5. 効果

参加者の反応は概ね好評であったが、来場者数に対して、ワークショップ参加者数が少なく、ワークショップの内容に改善が必要であろうと思われた。来場者の多くは、ハンドクラフトに興味のある女性であり、簡単な指編みは、ワークショップで体験せずとも機知の技術であったと思われる。

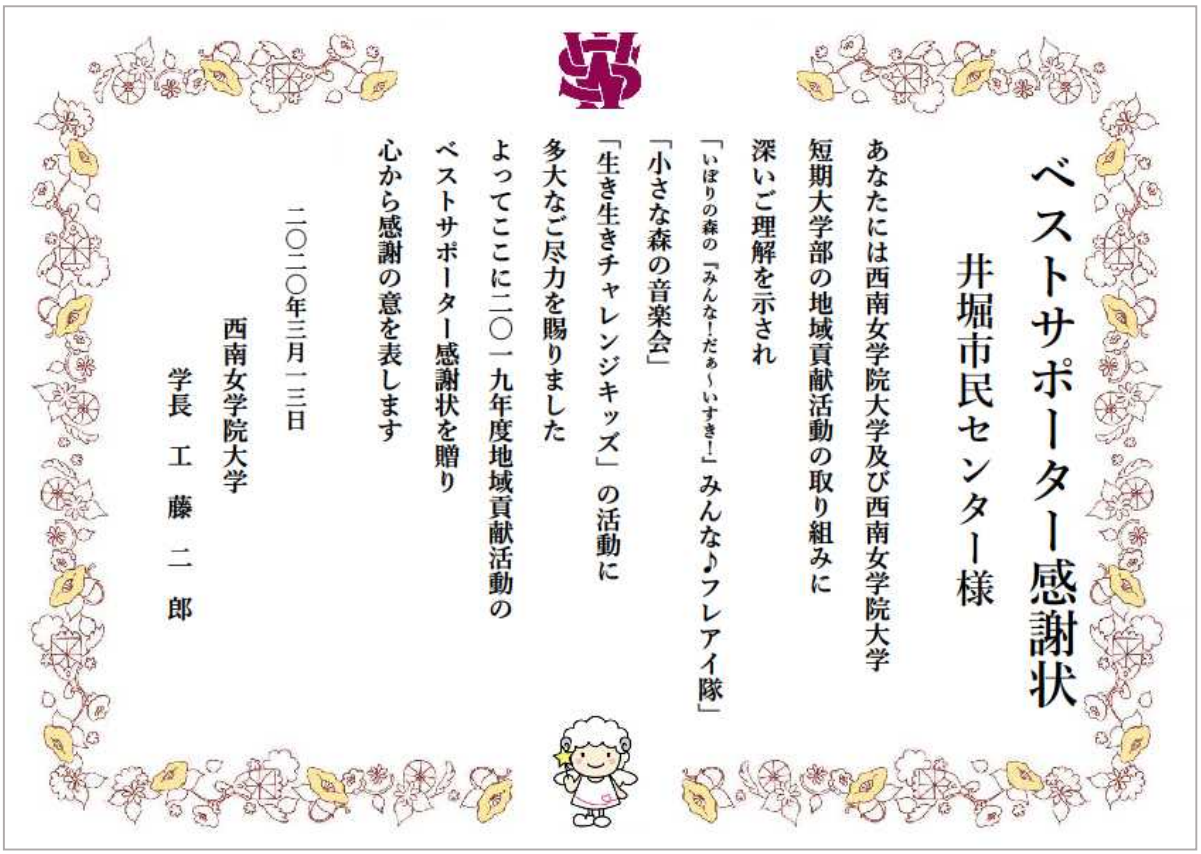
実施学生は 2 年生で、すでに学外実習を終えた時期であるため、ワークショップに参加した子どもたちと接する様子は安定感のあるものだった。また、中高年の参加者へも穏やかに明るく接することができており、今後、保育者として保護者を含めた地域住民に接することもあることから、良い学びの機会になったと考えている。

とばた菖蒲まつり 2019
2019 年 6 月 8 日(土)
夜宮公園

手づくり市場 in 北九州 2019
2019 年 11 月 2 日(土)・ 3 日(祝)
西日本総合展示場

2019 年度ベストサポーター感謝状

本年度は、1 名、2 団体にお渡しすることといたしました。



ベストサポーター感謝状

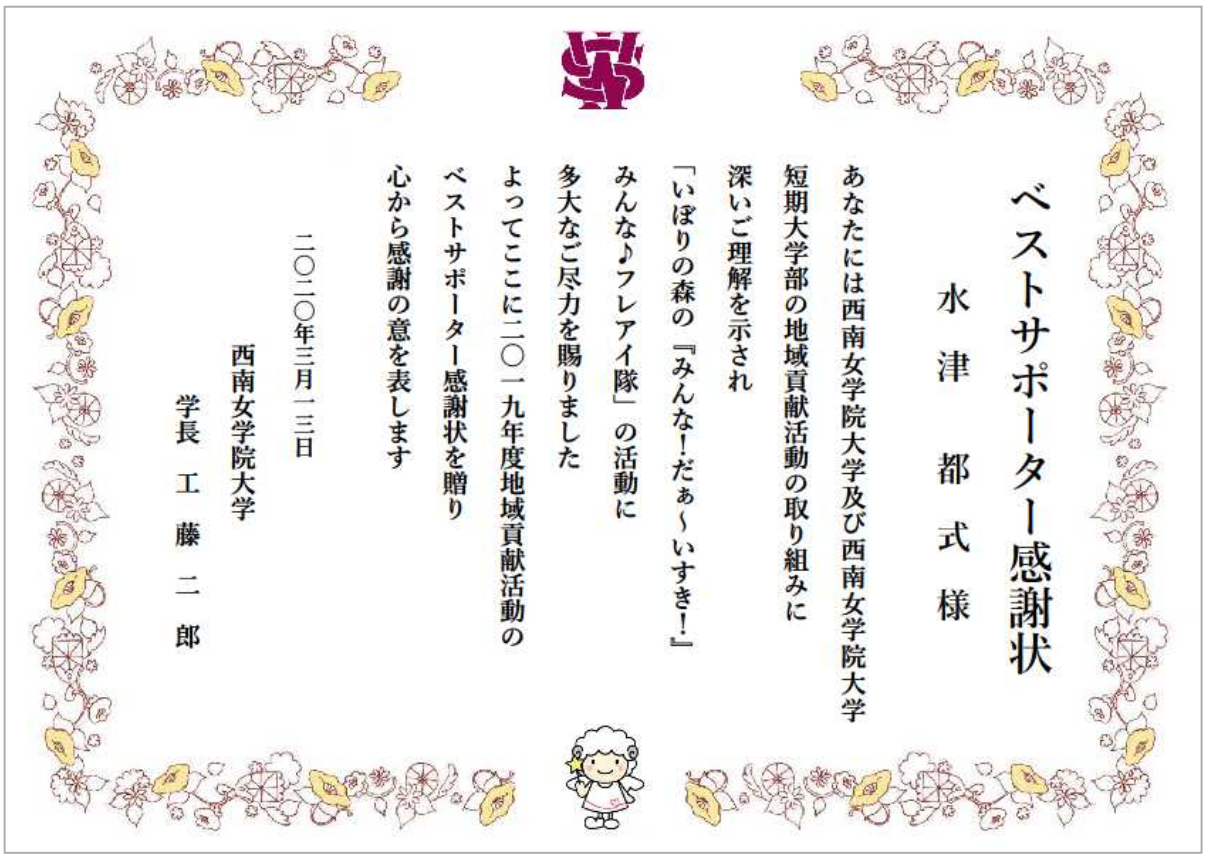
井堀市民センター様

あなたには西南女学院大学及び西南女学院大学
短期大学部の地域貢献活動の取り組みに
深いご理解を示され
「いぼりの森の『みんな!だぁ～いすき!』みんな♪フレアイ隊」
「小さな森の音楽会」
「生き生きチャレンジキッズ」の活動に
多大なご尽力を賜りました
よってここに二〇一九年度地域貢献活動の
ベストサポーター感謝状を贈り
心から感謝の意を表します

二〇二〇年三月一三日

西南女学院大学

学長　工　藤　二　郎



ベストサポーター感謝状

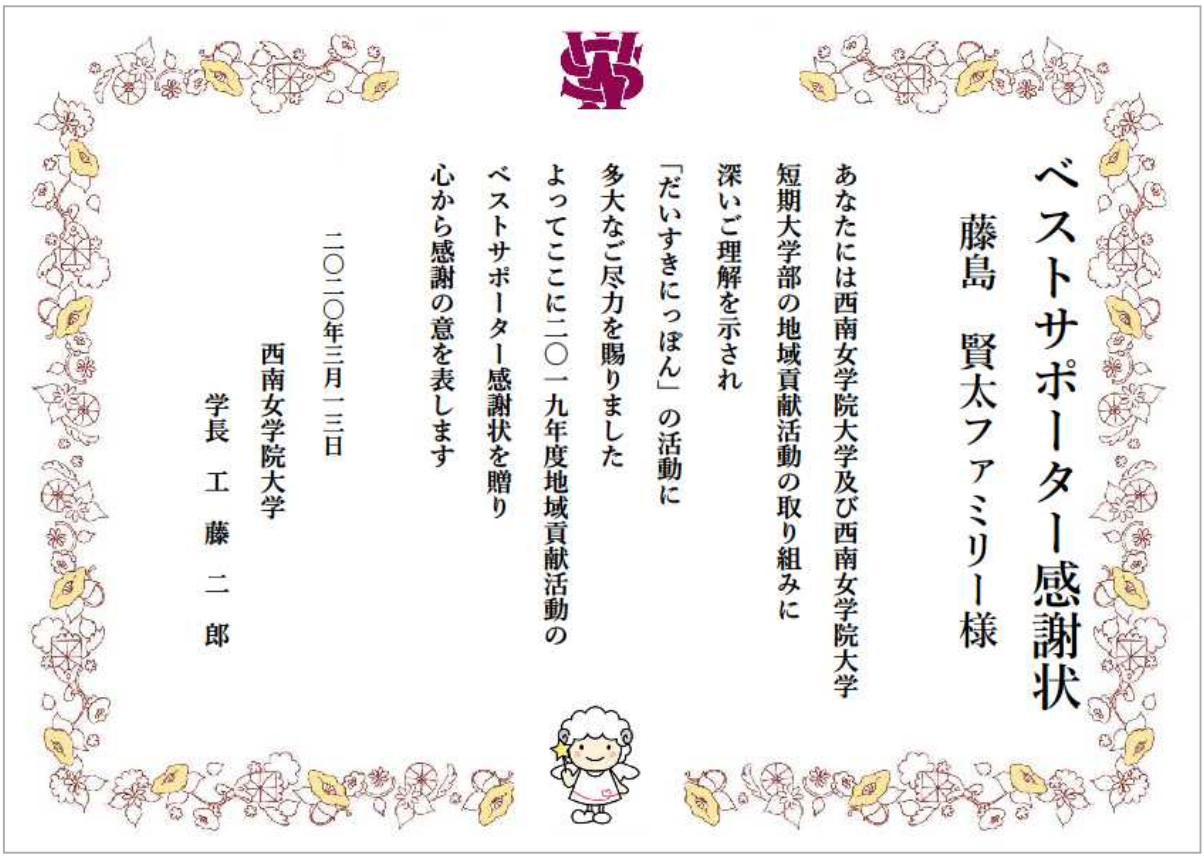
水　津　都　式　様

あなたには西南女学院大学及び西南女学院大学
短期大学部の地域貢献活動の取り組みに
深いご理解を示され
「いぼりの森の『みんな!だぁ～いすき!』
みんな♪フレアイ隊」の活動に
多大なご尽力を賜りました
よってここに二〇一九年度地域貢献活動の
ベストサポーター感謝状を贈り
心から感謝の意を表します

二〇二〇年三月一三日

西南女学院大学

学長　工　藤　二　郎



ベストサポーター感謝状

藤島　賢太ファミリー様

あなたには西南女学院大学及び西南女学院大学
短期大学部の地域貢献活動の取り組みに
深いご理解を示され
「だいすきにっぽん」の活動に
多大なご尽力を賜りました
よってここに二〇一九年度地域貢献活動の
ベストサポーター感謝状を贈り
心から感謝の意を表します

二〇二〇年三月一三日

西南女学院大学

学長　工　藤　二　郎

「とどけ！ぬくもり要かなめから」

学生たちが考えた地域貢献活動のキャッチコピーです。

人としてのぬくもりを多くの方々のこころに届けたい、本学での学びを自身の「要」とし、地域貢献の「要」となる、このような学生たちの思いが込められています。

要かなめちゃん

学生たちが考えた西南女学院大学の公式キャラクターです。

要ちゃんを見たら、西南女学院だと思っていただけると嬉しいです。

地域連携室では、自治体や地域諸団体の代表者の方々に学外構成員としてご就任いただき，本学の教育活動と地域貢献活動についての意見を伺っております。2 名の方に、本学への温かいメッセージをいただきました。

西南女学院大学の地域連携活動に感謝

北九州市立井堀市民センター館長　植村　茂信

井堀市民センターと西南女学院大学の係わりは、もう５年になります。

きっかけは、「小学校の全ての学年の児童を対象とした『生涯学習講座』の「地域全体で子どもの育成を支援」と言う事業でした。

井堀校区では、この事業を「生き生きチャレンジ・キッズ」と呼び、活動しています。

目的は、「地域の大人とのふれあいや学校・家庭だけでは経験できない体験などを通じて、子どもたちには、郷土愛や友情、相手を思いやる心の醸成、大人たちには地域で子ども達を見守り、育む風土をつくりあげること」です。

井堀校区には、幸いにも西南女学院大学と言う地域にも信頼のある大学があります。児童たちに小学生の時から高等教育を体験させたいという思いから、失礼ながら学長さんと事務局長さんにお願いをしましたら、快く引き受けを頂きました。年末近いお忙しい時期だったと思いますが、大掛かりな企画で、学内中を小学生がウロチョロさせていただきました。入試前の大学見学に来ていた、生徒・保護者も小学生を見て、何故と言う顔をしながらも笑顔だったことを思い出します。テレビの取材なども来られて、児童、学生、保護者、スタッフ全員で記念写真を撮りました。「大きくなったら、この大学に入ります。」の声を聞き、中学、高校、大学と進むとまだまだ、いろいろな勉強があることを体験出来てよかった。学校・家庭だけでは経験できない体験をさせることが出来たとホッとしました。この事業は、お陰様で５年目を迎えています。

その後、企画を担当していただいた保育科の藤田先生とお話をする中で、井堀校区の子育てのお手伝いをしていただけないかとお願い・検討を重ねた結果、藤田ゼミの学生さんの実習を兼ねた体験が、出来るのではないかと実践してみることにしました。内容は、今までの市民センターの子育てサポートにはない新しい形態で、学生さんの頑張りで、子どもさんにも保護者の皆さんにも好評なものになりました。４学年目になりますが、子どもの成長、保護者の成長、学生の成長にしっかり繋がっていると思い感謝いたしております。

その後、たくさんの先生方ともお話をさせていただいて、ハンドベルの演奏、クリスマスの成り立ち、健康講座、観光文化講座などのセンター講座を開催させていただき、井堀校区の教養を高めていただきました。

まだまだ、たくさんあったかと思いますが、私の任期も５年で、今年の３月までです。

５年間を振り返った時、西南女学院大学の比重があまりにも大きいので、感謝の念でいっぱいです。大学の益々のご発展と先生方、学生の益々のご健勝をお祈りいたします。

西南女学院大学・地域連携室との関わりの通して

平和通り法律事務所　所長弁護士　小鉢由美
（福岡県弁護士会北九州部会）

西南女学院大学地域連携室の地域連携室構成員を拝命しております、福岡県弁護士会北九州部会所属で、平和通り法律事務所の小鉢と申します。

保健福祉行政の審議会や、障害者高齢者の刑事弁護事件の関係で、福祉学科の今村浩司教授（地域連携室長）と一緒に活動をさせていただきました。また、教授が前職の時代から色んな場面でつながりを頂いており、そのご縁から、現在の地域連携室構成員をさせて頂いております。

西南女学院大学のキャンパスへ一歩足を踏み入れますと、当然のことながら今からの時代を担う若い女性の歓喜の声が聞こえてきます。今から社会に出ていく準備の段階の女性達のエネルギーの強さ、希望満ち溢れる力強さ、とでも言いましょうか、そこからわき出るエネルギーを私たちも頂いている、そんな思いが致します。以前の地域懇談会でお伺いした時に、思わぬことに気付きました。それは、このご時世に、大学生が本当によく挨拶をされるなーということです。と言いますのは、崖の下のバス停（失礼！）で下車し、心臓破りな坂を這い登っていく数分の間に、私が外部の人間とわかるのでしょうか、「こんにちは」と声をかけられて、笑顔で軽く会釈をされる学生さんたちを、本当に多く目にしました。このような丁寧な気持ちの良い姿勢は、長年の歴史を持たれる西南女学院だからこそ、と感心しています。

地域連携室との関わりは、地域貢献活動的なものとして、前述した今村教授とともに「北九州福祉と司法の実践研究会」を立ち上げ、その研修会場として西南女学院大学の 6 号館や 8 号館をお借りし、様々な社会問題をテーマにまじめに議論をしているのが主なきっかけです。福祉の専門職である社会福祉士や精神保健福祉士、そして法律の専門職である弁護士が一同に会して実践活動を報告しあい、グループワークを行う形をとっています。実はそこに西南女学院大学の学生さんたちにも参加して頂いています。今のところ、法律に関連深い福祉学科精神保健福祉コースの今村ゼミの学生さんが多いですが、1 年生から 4 年生、そして卒業生して福祉の専門職として活躍されている方がおおよそ 40 名程度参加されています。弁護士も 20 名程度参加させて頂き、臨床現場における、福祉と司法の実践研究の場を設定しています。専門職同志の研究会はよくあるのですが、そこに学生さんが入られるというのは全国的にも珍しく、公務員の立場の方も参加され、またマスコミの方がこられたり、はたまた県外の宮崎から、わざわざこの研究会の視察にこられたり・・。そのようは活動をさせて頂いています。その際には言うまでもなく、西南女学院大学の学生さんたちが資料の準備や会場の設営、案内等々のお手伝いをして下さっています。

大きな活動ではありませんが、お互い顔の見える範囲で、少しずつ関係性を広げながら連携の輪を作り、これからも地元に根差した地域貢献活動が、西南女学院大学さんとご一緒に展開できればと願っております。微力ではございますが、何らかのお役に立てればと思っておりますので、今後ともよろしくお願い致します。

２０１９年度地域連携室の取り組み

１．後期北九州市民カレッジの開講

（１）概要

本学では、昨年度より地域の皆様の多様な学習ニーズに対応した生涯学習機会を提供し、自己実現の促進を図ることを目的に「令和元年度後期北九州市民カレッジ」（11 月 14 日～12 月 12 日の 5 日間の計 5 回）を開講した。

（２）全体テーマ

『人生 100 年時代を健康でアクティブに生きるために』。

（３）各講座のテーマ

第１回：「令和から始める食生活の改善～健康長寿を目指しましょう～」

担当：保健福祉学部栄養学科　教授　近江雅代

内容：疾病や障害の有無に関係なく、「元気な高齢者」を目指すため、フレイルティとメタボ対策について、日ごろの食生活のポイントを紹介した。

第２回：「からだを使って健康長寿」

担当：保健福祉学部福祉学科　教授　稲木光晴

内容：スタミナづくり運動や筋力づくり運動の効果や老化による筋肉の量的・質的変化などについての説明を通して、高齢者が健康で自立した生活を送るためには、筋肉量・筋機能の維持・向上がいかに重要かを理解していただいた。その上で、筋力づくり運動やスロージョギングなど具体例を挙げ、安全で効果的な実践方法を紹介した。

第３回：「命をつなぐ～食べるということ～」

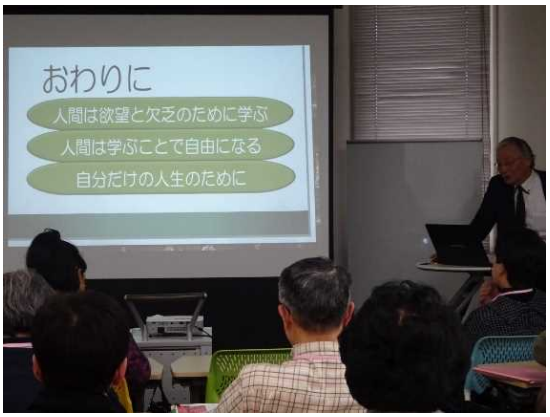
担当：保健福祉学部看護学科　講師　吉原悦子

内容：講義と演習を行う。講義では、嚥下機能に関連する人体の構造と機能、加齢による機能の低下について、また、オーラルフレイルや口腔機能低下症についてなど最近のトピックスも含め説明した。演習では、看護学科の学生にも参加してもらい、嚥下体操と飲み物にとろみをつける体験を行なった。

第４回：「自分だけの人生のために～学ぶということ～」

担当：保健福祉学部看護学科　教授　新谷恭明

内容：学ぶということについて講義した。まずは、人はなぜ学ぶのかについて平安時代の貴族、江戸時代の庶民の学びについて。次につらい学びについて。そして、自由大学に見る解放の学びを紹介し、最後にラングラン、ジェルピを参照して学びの理論を紹介した。



第５回：「長生きのコツ」

担当：保健福祉学部看護学科　教授　浅野嘉延

内容：日本の医療と高齢化の現況を説明し、それを踏まえて、がん、生活習慣病、フレイル、認知症の予防法を紹介した。病気になった際の対処法を内科医の経験をもとに解説した。事前に受け付けた医療に関する質問に回答した。

（４）受講生数

25 名（単位認定者 24 名）で、スポット受講生延べ 4 名。

（５）受講生からの感想

西南女学院大学・西南女学院短期大学とのご縁

小野山眞理子（全九州釣ライター協会事務局長・小路眞理子）

創立１００周年を迎えようとしている歴史ある西南女学院大学・同短期大学が、私の住む戸畑から近い小倉北区井堀にあることは承知していた。

ミッション系のお嬢様学校として名高く、幼稚園から大学まで男女共学で学んできた私にとっては、あまりご縁のない場所だと思っていた。ところが、ある日ある時、市政だよりに目が留まった。「シニアサマーカレッジ」。何かに背中を押されるように申し込みのハガキを出し、受講票が届いた。これを契機に、私は西南女学院大学・同短期大学に足を踏み入れることになったのである。２０１７年、夏のことだった。

石丸美奈子氏が西南女学院大学・同短期大学の地域連携室のアドバイザーに就任していたことも、受講を考えた要因のひとつだった。ご存知のように、石丸氏は「北九州ＬＯＶＥ」を公言する著名なコピーライターであり、（公財）北九州市芸術文化振興財団の理事を長年務められた。北九州市他、様々な自治体や組織、団体等の審議委員やアドバイザーを歴任し、型破りでダイナミックかつ洗練された提案を行って、その時代ごとの金字塔を打ち立ててきた。そんな彼女が、ここでも何か面白そうなコトをやってくれるのではないか、という期待感があった。

シニアサマーカレッジの初日、ベテラン受講生の方々の意欲的でパワフルなオーラに圧倒された。講座のメニューは、健康に過ごすための食事と運動、こころのあり方と福祉、人生観と心理学、コミュニケ

ーション能力、情報通信技術の活用法、異文化と観光など多彩で、固くなりつつある私の頭に、嬉しい刺激を与えてくれた。

そんな講座のひとつに、学生との交流があった。そこには、彼女たちの授業の延長線上にあるかもしれない「やらされている感」は全くなく、シルバー世代のわれわれに対して、真摯に柔らかい物腰で接してくれたのである。想像以上だったその姿勢は、まさに「感恩奉仕」の精神であると納得した。また、年に数回実施されている大学連携公開講座では、西南女学院大学保健福祉学部と九州歯科大学が共同で、市民に「健康に生きていくための情報」をわかりやすく提供し、地域に貢献している。今や大人気の講座となり、受講は狭き門である。

そして、石丸氏である。公開講座の講師に、まずは親交の深い関西大学環境都市工学部の江川直樹教授（平成３０年度文部科学大臣表彰「科学技術賞（理解増進部門）」受賞）と関谷大志朗研究員を招いた。江川教授のお人柄もさることながら、斬新で画期的な講義内容は、感嘆に包まれて大盛況であった。続いて、漫画家・イラストレーターのわたせせいぞう氏を招いて、往年の女子たちの乙女心をときめかせ、こちらも満場の熱い拍手に包まれた。

このように振り返ると２０１７年以降、私の年間スケジュールに各種の公開講座が自然と組み込まれるようになってきている。そして２０２０年、今年もまた、いつのまにかご縁が深まった西南女学院大学・同短期大学に足繁く通うことになりそうである。

小野山　眞理子さんのご紹介

小野山さんは本学で開催されているシニアサマーカレッジや市民カレッジ、栄養学科及び地域連携室の公開講座に参加してくださる本学の強力なサポーターです。西南女学院大学が開講する各種講座の受講生の方々はリピーターが多いのが特徴で、嬉しい限りです。

２．子ども子育てワーキンググループの取り組み

（１）WG メンバー：命婦恭子（保育科）、天本理恵（栄養学科）

（２）企画名：公開講座『子育てとメディア』の開催

（３）活動の目的

子どもたちと社会をつなぐメディア(媒介)は、技術の進歩とともに絵本や児童書などからテレビ、パソコン、スマートフォンなど多様になっている。私たち大人もメディアの一つだと考えれば、私たちが多様な選択肢から何を選び、どうアクセスできるように子どもたちに提示するのかによって、子どもと社会のつながり方が変化するのではないだろうか。ここでは、絵本と ICT という 2 種類のメディアを取り上げ、これらを使って子どもたちと大人がどうつながりたいのか、さ

らに、子どもたちと社会をどうつなげたいのかについて考える機会としたい。

子どもと社会をつなぐ様々なメディアの中から、絵本と ICT を取り上げ、これらを使って子どもと大人がどうつながりたいのか、さらに子どもと社会をどうつなげたいかについて考える講演会を開催した。

（4）活動内容

開催日時：2019 年 9 月 21 日（土）

会　　場：6206 大講義室

講　　師：よしながこうたく氏（絵本作家）・領木信雄氏（西日本工業大学教授）

終了後に、公開講座の参加者に「絵本の部屋」などの学内施設を案内した。講師のよしながこうたく先生及び領木信雄先生も見学された。

～地域連携室ブログより抜粋～

9 月 21 日の午前 10 時から、絵本作家のよしながこうたくさん、西日本工業大学の領木信雄教授をお招きして本学 6206 講義室で公開講座「子育てとメディア」を開催しました。

■プログラム１　よしながこうたくさん「絵本をつうじてつたえたいこと」

よしながさんは、全国各地でワークショップやよみきかせなどのイベントを行う大人気絵本作家です。いつもワークショップをなさる時の衣装で、幼少の頃のお話や絵本作家になるまでのいきさつ、絵本を作る上で大切にされていることなどを教えていただきました。ご来場の皆様の笑いの絶えないあっという間の時間でした。

■プログラム２　領木信雄教授「子どもをとりまくデジタルメディア」
領木先生には、「教育の ICT 化」や「デジタルメディア」の専門家としての立場から講演していただきました。デジタルに対する一部の偏見も踏まえた上で、これから子どもと一緒に上手にデジタルを活用する方法や、来年度スタートするプログラミング教育の捉え方などを教えていただきました。プログラミングソフトのデモンストレーションでは、こんなに想像力豊かにデジタルを活用できるのかと驚きの連続でした。

■プログラム３　ディスカッション

おふたりと本学命婦准教授を加えたディスカッションでは、「コミュニケーションツールとして、また、生まれて初めて出会うアートとして絵本を利用してもらいたい」というよしながさんと、「創造のためのツールとしてデジタルを賢く利用してもらいたい」という領木先生のお話を伺うことができました。

ご来場の皆様のアンケートに「とても内容がよかった」「もっと講演を聞きたかった」と感想をいただいております。次回の地域連携室公開講座にもどうぞご期待ください。

３．女性活躍ワーキンググループの取り組み

（1）オレンジゴスペル＆讃美歌コーラスイベント

１）主　催：女性活躍ワーキンググループ、NPO 法人福岡ジェンダー研究所

２）WG メンバー：大谷浩（英語学科）、倉富史枝（英語学科、NPO 法人福岡ジェンダー研究所）、太田かおり（英語学科）、高口恵美（福祉学科）、東彩子（保育科）、石丸美奈子（地域アドバイザー）、樋口真己（人文学部）、大谷芳子（地域連携室）
学生ボランティア：中嶋巴都香、福田百花（看護１年）、栗岡聖奈、戸田奈々子（看護２年）、高橋美穂、帆足優紀子（英語１年）

３）企画名：オレンジゴスペル＆讃美歌コーラスイベント　～女性が活躍できる社会へ～

４）概　要

①活動の経緯と目的

WG では、毎年「女性活躍」をキーワードに、また女子大学の意義を PR する取り組みを行っている。今年度は、ドメスティック・バイオレンス（ＤＶ）と児童虐待の撲滅を目的として活動する「オレンジゴスペル」を招聘し、本学学生・教職員・地域住民のＤＶや児童虐待に対する理解を深めることを目的とした。併せて、讃美歌コーラスイベントを開催し、創立百周年プレイベントとして往年の讃美歌コンクールの復活を模索する。いずれも参加者が共に歌を歌うことで、知識や情報提供を超えて一体化する場を作り出し、地域や学内での女性活躍社会に対する啓蒙と、互いの結びつきを再認識する機会を作った。

②活動内容

実施日時：10 月 26 日（土）14 時～16 時 30 分

会　　場：マロリーホール

第１部の讃美歌コーラスイベントでは、教職員、大学・短大生、同窓生（旧短大保育科卒業生）、西

南中学生の４グループが出演した。グループ紹介、曲紹介を行うとともに、讃美歌を身近に知ってもらうために、会場の参加者に歌詞カードを配布し、参加者と歌を通じて交流する機会を作った。

第２部のオレンジゴスペルプロデューサーの打木希瑤子氏によるスピーチを行った。オレンジゴスペルを始めたきっかけや虐待が起こる原因及び、日本が子育てに優しい社会になるにはといった話をされた。

第３部のワークショップでは、講師のボビー・ソボローさんの指導のもと、「Don't Give Up」をパートに分かれ練習し、最後には大合唱となった。

５）結　果

参加者は、乳幼児も含め約 190 名が来場し、２つの音楽イベントを通して、学生・生徒、教職員、同窓生、地域の方々が交流する機会を得ることができた。また、全体的な啓発としては、ゴスペルという新鮮な手法及び主催者のスピーチで、参加者の児童虐待への理解を深めることができた。
これまでの地域連携室の公開講座の参加者とは異なる若い層や子どもづれの参加があっている。

６）ボランティア学生の感想

①ボランティア活動に参加した動機について教えてください。

・英語学科の先生からお誘いいただき、私自身もそのような貴重ない経験をぜひさせていただきたいと思ったからです。

・以前から児童虐待・DV 撲滅に関心を持っていました。放送部で培ったアナウンスで奉仕するのと同時に、これらについての知識をインプットできると思い、ボランティアに立候補しました。

②活動を通して、得たもの、難しかったこと、楽しかったことはありますか。

・私の主な担当は通訳だったのですが、講演の内容も児童虐待とかなり難しい内容だったため、正確に訳すことが大変難しかったです。その分、難しい内容をどう伝えるかというコミュニケーションの面では、得るものが大きかったと思います。海外の方と英語でたくさんのコミュニケーションを取ることができ、様々な知識を得ることができたことが楽しかったです。

・ゴスペルを会場にいる皆で歌ったことが楽しかった

③活動に参加して、自分自身が何か変化したことはありますか。

・活動に参加させていただく前と比べて、もっともっと英語力を上げたい。また、世界のことをもっと知りたいという思いが強くなりました。児童虐待の講演を聞き、困っている人々のために何かしたいと強く感じるようになりました。

④今後に活かせるものはありましたか。

・児童虐待や DV を今すぐにすべてなくすことはとても難しく、膨大な時間や労力がかかると思います。個人で活動するのにも限界があります。しかし、その個人の力が集まると大きな力になって社会を動かすことができるのだ、とこのワークショップに参加して改めて思いました。

・講演を聞いて分かった、日本の虐待の現状などは活かすことができると考えています。今後様々なボランティアに参加したいと思うきっかけになりました。また、通訳という貴重な経験は必ず今後に活かすことができると思います。通訳を通して得たコミュニケーション能力、通訳をして感じた私の英語の拙さなどを、今後の学習に活かしたいと思います。

7）御　礼

①　コーラスイベント

旧職員の田中由紀子様には、讃美歌コーラスイベントを開催するにあたり、多くのアドバイスをいただき感謝しております。また、ご出演いただいた方々もありがとうございました。

②　オレンジゴスペルワークショップ

ゴスペルディレクターの小迫奈緒さん（旧短大英語科卒業生）およびボランティアのパートリーダーの方々には、機材の準備から実施にいたるまでご協力、ご支援いただき感謝しております。

8）添付資料

①広報用チラシ

③　写真資料

9）補足説明

〇福岡ジェンダー研究所

当研究所は、九州初のジェンダー問題専門の民間シンクタンクです。性別に関わりなく、一人ひとりが個性と能力を発揮して生き生きと輝く社会を目指して、活動を展開しています。自治体との協働を含め、相談事業、研修事業、調査研究・政策提言事業、人材養成事業を核とし、児童虐待やＤＶ、ハラスメントなどの暴力の根絶、ワークライフバランスの推進、女性の決定の場への参画促進などをテーマに様々な場面での男女共同参画の実現をめざしています。

研究所ＨＰ：https://www.fgsi.jp/

〇オレンジゴスペル

ニューヨーク在住のゴスペル音楽プロデューサー打木希瑶子氏が、自身の被害経験を元に企画しました。ニューヨークでは DV 被害者としての講演やカウンセリングなどを行いながら、2009 年から日本のオレンジリボン運動をサポート。2011 年からは、プロデューサーとしての才能を生かし、ゴスペル音楽を通して DV 撲滅を訴える活動を開始しました。この企画の名称を「オレンジゴスペル」と名付け、日本全国の有志と共に毎年、全国ツアーを行っています。

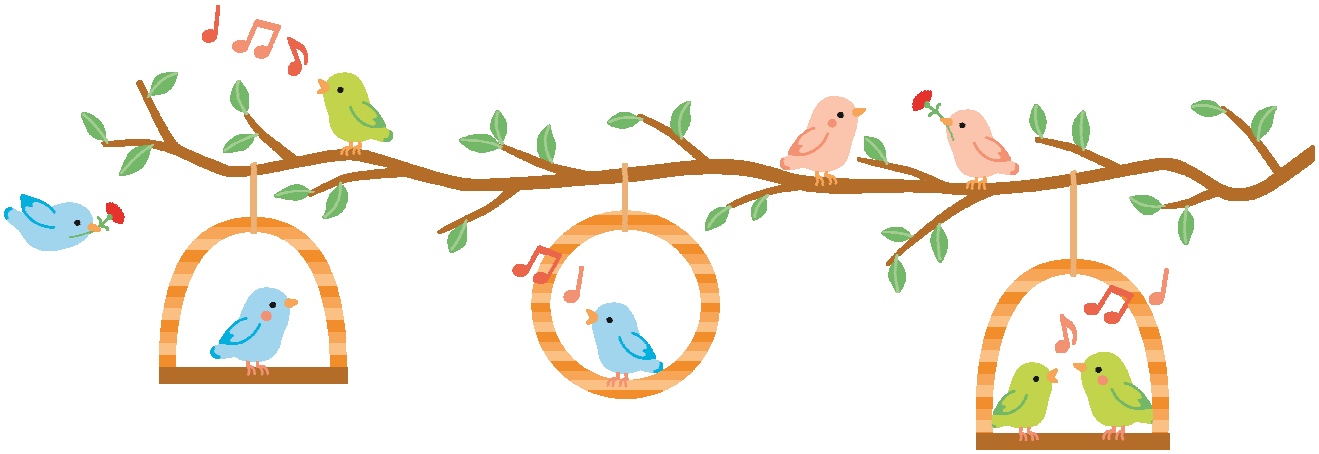
Raising kids together like Choir singing!

オレンジゴスペルＨＰ：http://www.orangegospel.com/

〇オレンジリボン運動

オレンジリボン運動は、「子ども虐待のない社会の実現」を目指す市民運動です。オレンジリボンは、そのシンボルマークであり、オレンジ色は子どもたちの明るい未来を表しています。この運動では、子ども虐待防止に賛同される方が、それぞれ胸にオレンジリボンをつけることで、子ども虐待防止の活動に参加できます。オレンジリボンは、子育てを暖かく見守り、子育てをお手伝いする意志のあることを示すマークなのです。

オレンジリボン運動ＨＰ：http://www.orangeribbon.jp/



（2）クリスマス礼拝での取り組み

1）学生による平和についてのスピーチ

英語学科４年生 木戸里佳さんが ***World Peace and Environment*** というテーマで英語スピーチを行った。

2）西南女学院卒業生のパネル展示

昨年と同様に、国内外で活躍している卒業生に学生時代の思い出や現役学生へのメッセージをパネルしたものを、会場であるアルモニーサンク北九州ソレイユホールのロビーに展示した。

４．フードドライブキャンペーンの実施

このキャンペーンは、NPO 法人フードバンク北九州ライフアゲインが、食品ロスや子どもの貧困について普及啓発を図るために行っている。家庭で賞味期限内に消費できない食品を回収して、必要な方にお渡しする活動であり、本学は食品回収ボックス設置場所のひとつとして、２０１７年度より実施している。

２０１９年度の開催は下記のとおり。

第１回　2019 年 10 月 16 日（水）～10 月 30 日（水）

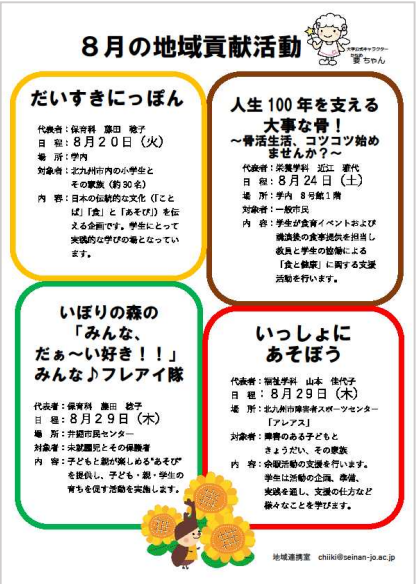
第２回　2020 年　２月　３日（月）～ ２月 14 日（金）

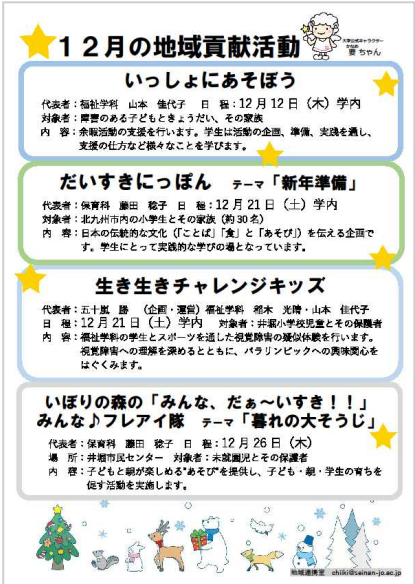
募集チラシ

5．広報活動

地域連携室ブログや、毎月の地域貢献活動をお知らせするポスターで、学内外への広報を積極的に行った。

ブログ更新　４１件（2019 年 4 月～2020 年 2 月 14 日現在）





6．その他の地域貢献活動（学生が取り組んでいる地域貢献活動の紹介）

本学では「地域に根差し、地域とともに歩む大学、短期大学づくり」に向けて 2016 年 8 月に地域連携室を設置し、学生教育の一環としての地域貢献活動の環境整備等を進めています。「学生教育の一環として実施される地域貢献活動に関するガイドライン」に基づき、地域連携室を通して学長の決済を受けた地域貢献活動以外にも、学生が取り組んでいる活動がありますのでご紹介します。

この活動は、2016 年から北九州市市民文化スポーツ局地域・人づくり部市民活動推進課主催で、「NPO 法人と大学生との交流会」を、本学と連携して数回開催致しまして、参加した学生が参加団体と繋がり、現在も継続して活動を展開しているものです。

ここでは、２つの活動を実践している学生からのメッセージを紹介致します。

１．子ども食堂　もがるかプロジェクト

（関係団体　NPO 法人フードバンク北九州ライフアゲイン様）

私たちは「子ども食堂」というボランティアに参加しています。活動内容は主に子ども達と一緒に夕食を食べたり、学習支援を行ったりと様々です。小学生から中学生の子ども達と身近に関わることができ、参加を重ねていくたびに子どもとの距離が縮まるのを感じられることが、子ども食堂の魅力の一つだと思います。誰でも気軽に参加できるので、ぜひ子ども食堂に遊びにきてください。

（福祉学科　２年）

２．一つ屋根プロジェクト

（関係団体　NPO 法人　地域医療連繋団体.Needs 様・社会福祉法人　もやい聖友会様）

私たちは、現在、大学生が「サービス付き高齢者住宅」に高齢者と同じ施設内で一緒に住むという一つ屋根プロジェクトに参加し、高齢者と共に食事を摂ることや、地域のボランティア活動に参加するなどして、福祉を身近に感じながら生活しています。将来、福祉に関係する仕事に就く上で、大切となるコミュニケーション能力や多世代の人生観を知る良いきっかけとなっています。普段は日常的に関わることの少ない、高齢者の方々と生活の場で関わることで、毎日学びと刺激のある、楽しい生活を送っています！　（福祉学科　３年）

子ども食堂の様子

一つ屋根プロジェクトに参加している学生

創立 100 周年プレイベント

創立 100 周年記念行事委員会 大学短大事前行事担当
保健福祉学部長　　浅野　嘉延

西南女学院は 2022 年に創立 100 周年を迎えます。

創立 100 周年記念行事委員会では、100 周年を学内外にＰＲし、お祝いの機運を盛り上げていくために、本学院の教職員が企画する行事のうち 100 周年に相応しいものをプレイベントとして支援することにしました。プレイベントに認定した行事のチラシには 100 周年のロゴを掲載し、行事当日にはポスターの掲示などで 100 周年を PR して貰っています。

プレイベントで使用するポスターは、福祉学科の上村眞生先生が苦心して３種類を作成して下さいました。うち１種類を図１に示します。

2019 年度は大学･短大で以下の５つの行事をプレイベントとして認定し､支援をしてきました。地域連携室が主催したものも含まれています。

１．関門海峡花火大会／校歌による音楽花火

教職員による募金で実現しました。テレビ中継もあり､「久しぶりに校歌を聴いて涙がでた」という卒業生の声をたくさん頂戴しました。

２．子育てとメディア（地域連携室の主催）

よしながこうたく氏（絵本作家）と領木信雄先生（西日本工業大学）を招聘して、子育てにおける絵本と ICT の役割について討論して頂きました。

３．オレンジゴスペルワークショップ・讃美歌コンクール（地域連携室の主催）

ニューヨークから打木希瑶子氏とボビー・ソロボー氏を招聘して、DV と児童虐待の撲滅を訴えるオレンジゴスペルを行いました。教職員・学生・生徒・卒業生による讃美歌コンクールも好評でした。

４．高校生英語スピーチコンテスト ―KANAME 杯－

全国の高校生を対象とした英語スピーチコンテストを開催しました。本選に進んだ 15 名が難民支援や女性の地位向上などについて力強くスピーチを行いました。

５．井堀の森の小さな音楽会（地域連携室認定の地域貢献活動）

地域の高齢者、児童園児、その母親など日頃はコンサートに参加が難しい方々をお招きして、北九州交響楽団有志と本学の学生によるミニコンサートを行いました。

図１　創立 100 周年プレイベントのポスター

創立 100 周年記念行事委員会では､2020 年度も様々な 100 周年プレイベントを行っていく予定です。西南女学院の教職員・学生・生徒・園児・卒業生など全ての関係者が、心をひとつに笑顔で創立 100 周年を迎えることを祈っています。

新聞記事に見る地域連携室 2019 年度の歩み

～地域連携室の足跡～

『塩こうじ活用し減塩を』～西南女学院大、九歯大が講座～

2019 年 6 月 23 日（日）西日本新聞　朝刊

『学生カフェ 2 号店』

2019 年 6 月 27 日（木）読売新聞（筑豊版）　朝刊

『西南女学院大生のカフェ来月 2 号店』～八幡西の福祉施設内～

2019 年 6 月 29 日（土）読売新聞　朝刊

『公開講座「子育てとメディア」』

2019 年 9 月 20 日（金）毎日新聞　朝刊

『子育てと ICT どう付き合う？』～西南女学院大　あす講座～

2019 年 9 月 20 日（金）朝日新聞　朝刊

『オレンジゴスペルワークショップ・讃美歌コーラスイベント』

2019 年 10 月 24 日（木）朝日新聞　朝刊

２０１９年度　地域活動論叢

2020 年 3 月 13 日発行

編集発行　西南女学院大学・西南女学院大学短期大学部
地域連携室
〒803-0835　北九州市小倉北区井堀 1 丁目 3 番 5 号
電話　093（583）5243

印　刷　モリプリンティング株式会社
〒806-0049　北九州市八幡西区穴生 3 丁目 11 番 5 号

西南女学院は 2022 年に
創立 100 周年を迎えます

地域貢献活動キャッチコピー

「とどけ！ぬくもり 要（かなめ）から」

西南女学院大学・西南女学院大学短期大学部　地域連携室

〒803-0835　北九州市小倉北区井堀 1-3-5
chiiki@seinan-jo.ac.jp

地域連携室ブログ